

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	九州産業大学
設置者名	学校法人 中村産業学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で 定 め る 基 準 単 位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
経済学部	経済学科	夜・ 通信	18	2		20	13	
	経済学科(夜間主 コース)	夜・ 通信				20	13	
商学部	経営・流通学科	夜・ 通信			8	26	13	
地域共創学部	観光学科	夜・ 通信			8	26	13	
	地域づくり学科 (昼夜開講制)	夜・ 通信			2	20	13	
商学部第一部	商学科	夜・ 通信			2	20	13	
経営学部	国際経営学科	夜・ 通信			2	20	13	
	産業経営学科	夜・ 通信			2	20	13	
理工学部	情報科学科	夜・ 通信			2	20	13	
	機械工学科	夜・ 通信			2	20	13	
	電気工学科	夜・ 通信			2	20	13	
生命科学部	生命科学科	夜・ 通信			2	20	13	
建築都市工学部	建築学科	夜・ 通信			2	20	13	
	住居・インテリア 学科	夜・ 通信			2	20	13	
	都市デザイン工 学科	夜・ 通信			2	20	13	

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
芸術学部	芸術表現学科	夜・通信	18		2	20	13		
	写真・映像メディア学科	夜・通信			2	20	13		
	ビジュアルデザイン学科	夜・通信			2	20	13		
	生活環境デザイン学科	夜・通信			2	20	13		
	ソーシャルデザイン学科	夜・通信			2	20	13		
国際文化学部	国際文化学科	夜・通信				2	20	13	
	日本文化学科	夜・通信				2	20	13	
	臨床心理学科	夜・通信				2	20	13	
人間科学部	臨床心理学科	夜・通信		2		2	22	13	
	子ども教育学科	夜・通信				2	22	13	
	スポーツ健康科学科	夜・通信	2			22	13		
(備考) ・学生募集を停止しているが、在学生のいる学部等： (平成30年度より学生募集停止) 経済学部経済学科(夜間主コース)、商学部第一部商学科、経営学部、国際文化学部臨床心理学科									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

教務部の学部別ホームページに一覧表を掲載している。選択に資するため、全学部共通の一覧表としている。また、本学のシラバス検索システムにおいて、「実務家教員」を指定して検索することで、対象となる科目を検索することが可能である。

【教務部ホームページ】

<https://www.kyusan-u.ac.jp/eas/app/wp-content/uploads/2019/06/zitumu2023.pdf>

【シラバス検索システム】

https://syllabus.kyusan-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	九州産業大学
設置者名	学校法人 中村産業学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページにおいて公表 https://www.kyusan-u.ac.jp/pdf/yakuin_230616.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	株式会社 役員	2年（令和5年6月16日から令和7年6月15日まで）	法人を代表し、その業務を総理する
非常勤	〃	〃	組織運営体制のチェック機能及び学校法人の運営等に多様な意見を寄与する
〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃
〃	一般社団法人 専務理事	〃	〃
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州産業大学
設置者名	学校法人 中村産業学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書(シラバス)の作成過程及び時期については、以下のとおりである。 ①教務委員会において作成依頼を行う(12月上旬)。作成依頼文書には、記載方法、留意点等を記載したマニュアルを提示し、学生主体の具体的な内容を記載するよう求めている。 記載項目 ・講義概要 ・講義計画(各回ごとのテーマ及び学習内容) ・到達目標 ・準備学習の内容(事前・事後学習) ・評価基準 ・評価方法 ・受講上の注意 ・受講制限 ・関連する科目 ・教科書 ・指定図書 ・参考文献他 ・実務家教員該当の有無 ・コンピテンシー ・ルーブリック ②大学評価室による第三者チェックを実施し(1月～3月)、内容の確認を行う。確認の結果、必要に応じて修正を行う。 ③前年度の3月(次年度開始前のガイダンス時)に公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	本学ホームページにおいて、対象を限定することなく、公表している。 https://syllabus.kyusan-u.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)の作成時に、授業科目担当教員に対してマニュアルを配布し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合性に留意し、この授業科目等を履修・修得することによって、「どのような知識やスキルを身に付けることができるのか」といった視点に基づき「到達目標」の記載を求めている。到達目標には、「〇〇ができる」等といった目標を具体的かつ明確に記載することを求めている。併せて、その評価についても、どのような方法で評価するのか、試験、レポート等を併用する場合の評価割合はどのようになっているか、上位の評価を得るための基準等についても、記載を求めている。</p> <p>これらの項目は、大学評価室の第三者チェックを経て、授業開始前に学生に公表され、自らが到達すべき目標を把握した上で、授業科目を選択することができる。</p> <p>授業科目担当教員は、学生に明示したこれらの項目に基づき、厳格かつ適正に単位授与の判定を行っている。</p> <p>学生は、成績発表(8月、3月)を以て自己の成績を確認することができるが、その内容に疑義がある場合は、授業科目担当教員に照会することができる。照会を受けた授業科目担当教員は、当該評価となった理由等の説明は行うが、これは、成績評価の厳正さを担保するための措置であり、救済の機会を与えるものではない。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、GPAを導入している。GPAについては、学則及び各学部の授業科目履修規程において算出方法等を規定し、明示している。</p> <p>GPAの算出方法については、全学部共通で成績評価に対するGPを設定し、下記の方法によって算出している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価に対するGP 秀 = 4、優 = 3、良 = 2、可 = 1、不可 = 0 ・ 算出方法 $GPA = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得たGP})] \text{の総和}}{(\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}}$ <p>※GPAの計算には、卒業要件単位に参入することができない科目及び編入学、資格検定等により認定された科目は含まない。</p> <p>上記の方法により算出したGPAについては、学生への成績発表を以て、通知している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>GPA制度について、大学のホームページにおいて公表している。</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/about_GPA.pdf</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、全学的な学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）は学則に定めており、学部、学科の学位の授与方針は、各学部の授業科目履修規程において規定している。

各授業科目のシラバスを作成する際は、ディプロマ・ポリシーとの整合性に留意して作成している。また、「外部評価委員会」を設け、学生の学修成果を確認し、ディプロマ・ポリシーとの整合性を検証するなど、ディプロマ・ポリシーが適切に実施されていることを確認しながら、運用している。

なお、卒業必要単位は全学部 124 単位である。

また、卒業判定については、学則に基づき、各学部教授会において卒業要件に対する学生の単位修得状況を確認の上、審議を行い学長に意見を述べる。学長は、意見を参考に卒業要件を満たした学生の卒業を認め、学位を授与するという手順で行っている。

具体的な学位の授与方針については、次のとおりである。

【大学全体】

(2022 年度以降入学生適用)

本学は、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 幅広い教養と専門的知識を備え、適切に活用できる。
2. 論理的に思考し、判断することができる。
3. 技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
4. グローバルな視点で多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って持続可能な社会の発展に貢献できる。
5. 広い視野を持って、主体的に他者と協力できる。
6. 情報技術を活用することができる。

(2021 年度以前入学生適用)

本学は、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 幅広い教養と専門的知識を備え、適切に活用できる。
2. 論理的に思考し、判断することができる。
3. 技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献できる。
5. 広い視野を持って、主体的に他者と協力できる。

【経済学部】

経済学部では、下記の事項を達成した者に対し、学士の学位を授与する。

1. 経済学の基礎的理論を理解し、それに基づいて現実の経済社会の諸事象を説明できる。
2. 地域経済や国際経済、金融・公共部門が抱える諸問題を理解し、それに取り組む能力を修得している。
3. 多様な文化と価値を知った上で、現実の問題解決能力と、公共の福祉に寄与するためのモラルや人間力を備えている。

【商学部】

商学部では、「産学一如」の理想と人材育成の目標に基づき、以下の知識や能力を修得した学生に学位を授与する。

1. 幅広い教養と職業人として必要な基礎的知識を身につけている。
2. 企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報に関する専門的な知識を身につけている。
3. 自ら問題を設定し、それを解決することができる。
4. 主体的に行動し、最後までやり遂げることができる。
5. 他者とコミュニケーションを図りながら、自らの考えや意見を伝えることができる。

【地域共創学部】

地域共創学部では、本学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、地域を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技能を兼ね備え、社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのために教育課程の中から指定された単位を含め、124単位以上を修得し、共創的な相互作用の発現に必要な幅広い教養、専門的知識、課題解決能力を身につけた者に対して学士の学位を授与する。

《観光学科》

観光学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 観光学に関する基本的知識を習得している。
2. 観光の諸問題を理解して課題を発見し、論理的に分析し考察する力を身につけている。
3. 九州・アジアに生起する観光の諸問題に積極的な関心を持ち続けることができる。
4. 自主的な学習を通じて、社会人としての自覚を持ち、責任を果たすことができる。
5. 観光の諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・検討・整理・統合する力を身につけている。自らの思考・判断のプロセスを明確に説明し、文章で表現する力を習得している。

《地域づくり学科》

地域づくり学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 地域の課題を理解し、幅広い教養知をもとに説明することができる。
2. 地域の課題を探る調査能力と、その課題解決力を身につけている。
3. 地域の活性化に寄与し、地域を共に創る協調性と実践力を身につけている。

【理工学部】

理工学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 各学科（情報科学科、機械工学科、電気工学科）における基礎的な専門知識を修得し、かつ専門知識を様々なアプリケーションに活用できる。
2. 論理的思考力・コミュニケーション能力・協調性・主体性・技術者としての倫理観を身に付け、創造力・実践力を発揮できる。
3. 情報メカトロニクスに関わる技術・技能を修得し、地域社会の発展に貢献できる。

《情報科学科》

情報科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 情報技術及び情報数理における基礎的な専門知識を修得し活用できる。
2. 情報分野を基盤とした機械・電気工学の分野において活躍できる。
3. 高い倫理観を持った技術者として円滑なコミュニケーションを図りながら地域社会の発展に貢献できる。

《機械工学科》

機械工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 機械・ロボット・メカトロニクス分野の仕事で必要とされる基礎的な数理学、機械工学の基礎及びこれらを産業界で生かすことができる。
2. 技術者として必要とされる倫理観、協調性を備え、コミュニケーション能力、問題解決能力を発揮できる。

《電気工学科》

電気工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 電気回路・電磁気に関する専門基礎の理解の上に、電力と情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、これらを実務に適用できる。
2. 技術者倫理を身に付け、論理的に説明・討論するコミュニケーション能力を発揮できる。

【生命科学部】

生命科学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し学位を授与する。

1. 社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を備えている。
2. 化学又は生物学領域の基礎的知識と専門的知識を理解し、活用することができる。
3. 化学又は生物学領域の実験技術を修得し、結果の分析や考察を通して成果をまとめ、発表することができる。
4. 応用化学、生命科学又は食品科学分野に関する課題を積極的に発見し、解決方法を思考することができる。

【建築都市工学部】

(2023 年度入学生適用)

建築都市工学部では、幅広い教養と建築都市工学に関する専門的知識及び技術・技能を学修し、次の実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生に卒業を認定し、学士（工学）を授与する。

1. 専門的知識を適切に活用できる能力
2. 論理的に思考し、判断する能力
3. 専門的技術・技能を学修し、創造力・実践力を発揮する能力
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会発展に貢献する能力
5. 広い視野を持ち、他者と協力する能力
6. 情報技術を活用することができる能力

《建築学科》

建築学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 建築設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 建築学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

(2022 年度入学生適用)

建築都市工学部では、幅広い教養と建築都市工学に関する専門的知識及び技術・技能を学修し、次の実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生に卒業を認定し、学士（工学）を授与する。

1. 専門的知識を適切に活用できる能力
2. 論理的に思考し、判断する能力
3. 専門的技術・技能を学修し、創造力・実践力を発揮する能力
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会発展に貢献する能力
5. 広い視野を持ち、他者と協力する能力

《建築学科》

建築学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 建築設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 建築学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

(2021年度以前入学生適用)

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 住宅を中心に建築学一般などのハードなものづくり領域及び住居・インテリアに関わる幅広いソフトなものづくり領域に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 都市デザイン工学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

【芸術学部】

芸術学部では、アーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者として次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 芸術の各分野における幅広い知識を備え、適切に活用できる。
2. 芸術の各分野における技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 高い知性と豊かな感性を備え、社会と文化の発展に貢献できる。

《芸術表現学科》

芸術表現学科はアーティスト、クリエイター、研究者として次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 自律した豊かな思考理論と学際的な専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 高度な表現技術と表現技法を修得し、優れた創造力と審美力を発揮できる。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術の芸術表現を通じて、芸術文化の創造に主体的に貢献できる。

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科はスペシャリストとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する今日の社会の要求に素早く対応する幅広い教養と専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 自己を発信する技術・技法を修得し、想像力・実践力を発揮できる。
3. 写真や映像メディアを通じて主体的に社会と文化の発展に貢献できる。

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 現代社会における多様なビジュアルコミュニケーションの専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 編集や伝達に関する技術・技法を修得し、表現力・実践力を発揮できる。
3. グラフィックデザイン、イラストレーションデザインを通じて社会と文化の発展に貢献できる。

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する社会において、豊かな暮らしや環境をつくる専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 造形や構成等の技術・技法を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 工芸、プロダクト、空間演出を通じて社会と文化の発展に貢献できる。

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 将来の地域社会のブランドづくりのための専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 情報伝達や企画構築の技術・技法を修得し、提案力・実践力を発揮できる。
3. 情報デザイン、ブランドづくりを通じて地域文化や地域産業の発展に貢献できる。

【国際文化学部】

本学部では、次の能力を備え、学則で定められた所定の課程を修了した学生に学士の学位を授与する。

1. 諸外国と日本の文化について幅広い教養を身につけ、さらにそれを専門的に探究できる。
2. 文化や国際事情に関する自らの知識や考えを論理的に表現する力を有している。
3. グローバル社会で活躍できる高度なコミュニケーション力と問題解決力を有している。

《国際文化学科》

国際文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を備えている。
2. 現代社会の多様な文化や価値観を認識し、いかに行動すべきかを自ら判断できる。
3. 国際社会の動向と問題に高い関心を持ち、その解決方法を広く社会に発信することができる。

《日本文化学科》

日本文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 日本文化について、専門的資料や現地調査を通してその課題を把握し、その問題に対応できる。
2. 多文化社会における日本文化のあり方を、グローバルな視点から相対的に思考・判断することができる。
3. 日本文化について学んで得た知識や考えを、言葉や文章を通して論理的に説明し、社会に広く発信することができる。

【人間科学部】

人間科学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、人間の成長及び発達過程を心身の両面から学び、人間を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技術を備えた、以下のような能力を修得した学生に学位（人間科学）を授与する。

1. 積極的かつ多様な方法により、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
2. 人間のこころとからだの発達に関する知識を修得し、専門的援助ができる。

《臨床心理学科》

(2022年度以降入学生適用)

臨床心理学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 臨床心理学をベースに置きながら、コミュニティ心理学、基礎心理学、精神保健福祉学、社会福祉学など多様な学びにより、人の心や生活に関する様々な問題に対応できる。
2. 他者の心理を深く理解し、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
3. 公認心理師や臨床心理士、精神保健福祉士等の対人援助職として、心の問題を持つ人を援助するための基礎的能力がある。

(2021年度以前入学生適用)

臨床心理学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 臨床心理学をベースに置きながら、コミュニティ心理学、基礎心理学、精神保健福祉学、社会福祉学、社会学など多様な学びにより、人の心や生活に関する様々な問題に対応できる。
2. 他者の心理を深く理解し、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
3. 認定心理士や精神保健福祉士等の対人援助職に就き、心の問題を持つ人を援助することができる。

《子ども教育学科》

(2023年度入学生適用)

子ども教育学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 子どもの心身の健康を、守り育てる確かな知識と技術を修得し、活用できる。
2. 子どもとその家族への共感と人間愛を基盤とした適切な対応ができる。
3. 特別な支援を必要とする子どもに専門的援助ができる。

(2022年度以前入学生適用)

子ども教育学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 子どもの心身の健康を、守り育てる確かな知識と技術を修得し、活用できる。
2. 子どもとその家族への共感と人間愛を基盤とした適切な対応ができる。
3. 健康な子どもだけでなく、特別な支援を必要とする子どもに専門的援助ができる。

《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. スポーツ健康科学に関する専門知識を持ち、様々なスポーツ活動、健康行動を支援する取り組みができる。
2. 産業界に貢献できる健康マネジメント（健康経営）の視点を持ち、スポーツ健康関連課題を説明できる。
3. 運動とスポーツを通じ「生きる力」を育成し、子どもから高齢者の地域の人々が心身共に健康で豊かな生活を送れるよう支援できる。

※以下、学生募集を停止している学部、学科等

【経済学部】（経済学科夜間主コース）

経済学部では、下記の事項を達成した者に対し、学士の学位を授与する。

1. 経済学の基礎的理論を理解し、それに基づいて現実の経済社会の諸事象を説明できる。
2. 地域経済や国際経済、金融・公共部門が抱える諸問題を理解し、それに組み込む能力を修得している。
3. 多様な文化と価値を知った上で、現実の問題解決能力と、公共の福祉に寄与するためのモラルや人間力を備えている。

【商学部第一部】

商学部は、教育課程の中から指定された単位を含め、124 単位以上を修得し、次の能力と資質を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 理論と実践の両面から学び、主体的に地域社会にかかわることができる。
2. 多様な考えに触れながら、理解し自分の考えの確かさを追及することができる。
3. 収集した情報を整理し、他者にわかりやすく伝えることができる。
4. 知識、社会適応力、総合的な学修経験を獲得し、社会の発展に貢献できる。

《商学科》

1. 幅広い教養と専門分野の基礎となる実践的な知識を身につけ、活用することができる。
2. 商取引に関して正しく理解できる。
3. 問題の発見、課題の設定と解決策の検討実施ができる。
4. マーケットとビジネスに精通した企業人及び起業家としてのマインドを持つことができる。
5. コミュニケーションを図りながら、自分の考え・意見を伝えることができる。

【経営学部】

経営学部は、建学の理想（産学一如）と理念のもとで、経営学の専門的な学修により、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った心身ともに健全な国際的教養人として、21 世紀のグローバル化社会・知識基盤社会の要請に対応できる人材育成を目的に定め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 経営学を基盤とした問題解決能力を持ち、マネジメントの重要性を認識している。
2. そのための要件として、①幅広い教養と経営学の専門的知識の活用、②論理的思考と判断、③経営学の技術・技能の修得による創造力・実践力の発揮、④多様な人々とのコミュニケーションと社会発展に貢献する熱意、⑤広い視野と他者の主体的な協力、の5つを備えている。

《国際経営学科》

国際経営学科では、学部の要件に加え、グローバル化社会で活躍できる人材として、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 異文化を理解する能力を備えている。
2. 専門的な職務遂行に有用な語学力を備えている。
3. 地球社会全体の発展を視野に入れたビジネス・パーソンとして行動できる。

<p>《産業経営学科》 産業経営学科では、学部の要件に加え、知識基盤社会で活躍できる人材として、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 独立心旺盛な経営者候補生として IT 革命による環境激変への対応能力を備えている。 2. 知識基盤社会の要請に対応した起業家マインドとビジネス・スキルを備えている。 3. 社会貢献を意識したビジネス・パーソンとして行動できる。 <p>【国際文化学部】 《臨床心理学科》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者の心理を深く理解できるとともに、自己啓発を継続して行うことができる。 2. 優れたコミュニケーション能力を持って、心の問題に対し深い理解と援助ができる。 3. 臨床心理学や精神保健福祉学の知識を実践に適用できる能力を有している。 	<p>(大学全体) (2022 年度以降入学生適用) https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/gakusoku_daigaku.pdf</p> <p>(2021 年度以前入学生適用) https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/gakusoku_daigaku.pdf</p> <p>(学部・学科別) (2023 年度入学生適用) https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf</p> <p>(2022 年度入学生適用) https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2022/diploma-policy_daigaku.pdf</p> <p>(2021 年度以前入学生適用) https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/diploma-policy_daigaku.pdf</p> <p>(募集停止学部) ・経済学部経済学科(夜間主コース)、商学部第一部商学科、経営学部、国際文化学部臨床心理学科 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/diploma-policy_daigaku.pdf</p>
--	--

卒業の認定に関する
 方針の公表方法

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	九州産業大学
設置者名	学校法人 中村産業学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学のホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/zaimu/pdf/2022/2022_taisyaku.pdf
収支計算書又は損益計算書	大学のホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/zaimu/pdf/2022/2022_keisan_shikin.pdf
財産目録	大学のホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/zaimu/pdf/2022/2022_zaisan.pdf
事業報告書	大学のホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/plan_and_results/pdf/2022/2022_jigyou.pdf
監事による監査報告(書)	大学のホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/zaimu/pdf/2022/2022_kanji.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人中村産業学園令和5年度事業計画書 対象年度:令和5年度)
公表方法:大学ホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/plan_and_results/pdf/2023/2023_jigyou_plan.pdf
中長期計画(名称:学校法人中村産業学園中期計画(2021-2030) 対象年度:令和3年度~令和12年度)
公表方法:大学ホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/plan_and_results/pdf/medium_plan_2021.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学ホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/inspection/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学ホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/assessment/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名：経済学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf
（概要） 経済学部は、将来の目標を意識して学生が選択する「地域・国際・金融・公共」の 4 クラスターにおいて、経済学の基礎から応用・実践までを系統的に学び、グローバルな視点と地域的な視点を身につけることを目的として教育・研究をおこなう。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf
（概要） 経済学部では、下記の事項を達成した者に対し、学士の学位を授与する。 1. 経済学の基礎的理論を理解し、それに基づいて現実の経済社会の諸事象を説明できる。 2. 地域経済や国際経済、金融・公共部門が抱える諸問題を理解し、それに取り組む能力を修得している。 3. 多様な文化と価値を知った上で、現実の問題解決能力と、公共の福祉に寄与するためのモラルや人間力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） （2022 年度以降入学生適用） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf （2021 年度以前入学生適用） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/curriculum-policy_daigaku.pdf
（概要） （2022 年度以降入学生適用） 経済学部のカリキュラム・ポリシーは下記のとおりである。 1. 学部ユニット、理論ユニットの科目を履修させた後、地域・国際・金融・公共の各クラスター配置の科目の履修により、卒業後の職業を見据えた応用力・実践力を段階的に養成する。 2. ゼミナール等の少人数教育によって、議論を通じて他者との相互理解を深めるとともに、問題発見能力やコミュニケーション能力等の社会人に必要とされる知識やスキルを身につけさせる。 （2021 年度以前入学生適用） 経済学部のカリキュラム・ポリシーは下記のとおりである。 1. 学部共通ユニット、基礎理論ユニットの科目を履修させた後、地域・国際・金融・公共の各クラスター配置の科目の履修により、卒業後の職業を見据えた応用力・実践力を段階的に養成する。 2. ゼミナール等の少人数教育によって、議論を通じて他者との相互理解を深めるとともに、問題発見能力やコミュニケーション能力等の社会人に必要とされる知識やスキルを身につけさせる。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 経済学部は、次の意欲を持った人を受け入れる。 1. 入学前に経済学を学ぶ上で必要な基礎学力を培うと同時に、地域・日本・世界の経済に関して幅広い関心を持ち、大学での勉学に積極的に取り組む人。 2. 卒業後には経済の知識や資格を生かして地域社会に貢献したい、あるいはグローバルに活躍したいと考え、その実現に必要な能力を身につけようという意欲を持つ人には、勤労者や社会人も含めた広い世代に門戸を開いている。</p>
<p>学部等名：商学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 《商学部》 商学部の教育研究上の目的は、幅広い教養を身につけるとともに、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき設置した「多様なコースでの専門的知識の学習」と「九州・アジアの地域社会・行政・企業を対象とした実践的な学び」を通じて、ビジネスに関わる課題を自ら発見できる能力、幅広い視野から解決策を提案できる能力、周りを巻き込み実行できる能力を学生に習得させることである。 《経営・流通学科》 経営・流通学科の教育研究上の目的は、九州・アジア地域を実践的な学びの対象として重視しながら、①幅広い教養と職業人として必要な基礎的知識、②企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報の専門的知識、③問題設定能力・問題解決能力、④行動力・やり遂げる力、⑤コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を学生に習得させることである。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 商学部では、「産学一如」の理想と人材育成の目標に基づき、以下の知識や能力を修得した学生に学位を授与する。 1. 幅広い教養と職業人として必要な基礎的知識を身につけている。 2. 企業経営、ファイナンス、会計、マーケティング、国際ビジネス、社会情報に関する専門的知識を身につけている。 3. 自ら問題を設定し、それを解決することができる。 4. 主体的に行動し、最後までやり遂げることができる。 5. 他者とコミュニケーションを図りながら、自らの考えや意見を伝えることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf</p>

<p>(概要)</p> <p>商学部では、「産学一如」の理想を実現する人材を育成するために、以下の教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人として必要な基礎知識を身につけるために、各コースが提供する基礎科目を学科の全員もしくは学系の全員が履修する。 2. 専門的な知識を身につけるために、各コースにおいて設定されている体系的な専門科目をカリキュラムマップに沿って履修する。 3. 少人数教育を実践するため、すべての学年におけるゼミナールを全員履修とし、問題設定・解決能力や行動力、コミュニケーション能力を養うための教育を行う。 4. 実践力を育成するために、九州ビジネス科目と研修科目を設定する。これらの科目の中から興味・関心に基づいて複数の科目を履修するほか、ビジネスインターンシップについては希望する学生が履修できるようにする。 5. 資格取得を目指した資格関連科目を設定し、これらの科目の中から将来の職業選択を見据えて、複数の科目を履修する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>(概要)</p> <p>商学部では、多様な価値観と幅広い視野を身につけ、企業経営、地域社会、国際社会に主体的に対応できるための基礎・基本の修得を目指し、理論と実践の両面から学び、学問・文化・言語・価値観の交流に積極的に取り組み、新しい時代に対応する「生きる力」を發揮し、地域社会に主体的に貢献しようとする次のような学生を積極的に受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 将来の目標を明確に持ち、その実現のためにビジネスの知識を必要とする人 2. 「ヒト・モノ・カネ・情報」の流れに関心があり、ビジネスに関する専門的な知識・見識を習得しようとする人 3. 世の中の動きに対し、旺盛な好奇心を持って、ビジネスを考えようとする人 4. 勉学に真摯に取り組み、努力する習慣を身につけようとする人 5. 社会に何らかの形でかかわり貢献したいと思っている人

<p>学部等名：地域共創学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>（2022年度以降入学生適用）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf</p> <p>（2021年度以前入学生適用）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/human-training_daigaku.pdf</p>
<p>(概要)</p> <p>（2022年度以降入学生適用）</p> <p>《地域共創学部》</p> <p>地域共創学部の教育研究上の目的は、社会科学における基礎的な知識及び学際的な視点をベースに、「地域」「観光」分野の新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に求められる知識・スキル・人間性を習得することを教育研究の目的とする。地域社会を多角的に理解し、貢献できる「創造力」「行動力」を育み、「専門知識」を活かした「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を養うための理論と実践を融合させた教育を実施する。</p>

《観光学科》

観光学科の教育研究上の目的は、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき設置した二つのコース（ホスピタリティ・ビジネス、観光地域デザイン）による理論の学習と実践的、発展的な学びを通して、広く地域社会へ貢献できる「専門知識」「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を学生に習得させることである。

《地域づくり学科》

地域づくり学科の教育研究上の目的は、自らの生きる地域社会を多角的に理解した上で、地域社会における課題を自ら見出し解決策を企画するための調査能力、課題に対して積極的に取り組むコミットメント、地域の人々を協働へと巻き込むリーダーシップ、そして自らの学びに自覚的になることで更なる成長を遂げるための自省的姿勢を身につけるための研究・教育を行うことである。

(2021 年度以前入学生適用)

《地域共創学部》

地域共創学部の教育研究上の目的は、社会科学における基礎的な知識及び学際的な視点をベースに、「地域」「観光」分野の新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に求められる知識・スキル・人間性を習得することを教育研究の目的とする。地域社会を多角的に理解し、貢献できる「創造力」「行動力」を育み、「専門知識」を活かした「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を養うための理論と実践を融合させた教育を実施する。

《観光学科》

観光学科の教育研究上の目的は、将来のキャリアと地域社会のニーズに基づき設置した三つのコース（グローバル・ツーリズム、地域・観光デザイン、ホスピタリティ・マネジメント）による理論の学習と実践的、発展的な学びを通して、広く地域社会へ貢献できる「専門知識」「問題発見能力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」を学生に習得させることである。

《地域づくり学科》

地域づくり学科の教育研究上の目的は、自らの生きる地域社会を多角的に理解した上で、地域社会における課題を自ら見出し解決策を企画するための調査能力、課題に対して積極的に取り組むコミットメント、地域の人々を協働へと巻き込むリーダーシップ、そして自らの学びに自覚的になることで更なる成長を遂げるための自省的姿勢を身につけるための研究・教育を行うことである。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf

（概要）

地域共創学部では、本学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、地域を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技能を兼ね備え、社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのために教育課程の中から指定された単位を含め、124 単位以上を修得し、共創的な相互作用の発現に必要な幅広い教養、専門的知識、課題解決能力を身につけた者に対して学士の学位を授与する。

《観光学科》

観光学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 観光学に関する基本的知識を習得している。
2. 観光の諸問題を理解して課題を発見し、論理的に分析し考察する力を身につけている。
3. 九州・アジアに生起する観光の諸問題に積極的な関心を持ち続けることができる。
4. 自主的な学習を通じて、社会人としての自覚を持ち、責任を果たすことができる。
5. 観光の諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・検討・整理・統合する力を身につけている。自らの思考・判断のプロセスを明確に説明し、文章で表現する力を習得している。

<p>《地域づくり学科》</p> <p>地域づくり学科では、次の能力を身につけた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を理解し、幅広い教養知をもとに説明することができる。 2. 地域の課題を探る調査能力と、その課題解決力を身につけている。 3. 地域の活性化に寄与し、地域を共に創る協調性と実践力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>地域共創学部では、九州産業大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、全学共通の教養科目である基礎教育科目および外国語科目と、本学部の共通科目を含む専門教養科目群の設定により、学部共通の教育方針を明示しつつ、各学科にそれぞれの専門教育科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。</p> <p>《観光学科》</p> <p>大学及び地域共創学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、観光学科のカリキュラム・ポリシーを以下のとおり定めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光の基礎を学ぶ学科共通科目を設け、その他各コースの目標に対応した専門科目を配置している。 2. それぞれの専門分野ごとに、基礎、応用、演習と段階的に履修することができるように体系的に履修科目を配置している。 3. 基礎となる科目は全員履修としている。また演習系科目では、少人数による対話（報告・発表・討論）教育を行っている。 <p>《地域づくり学科》</p> <p>大学及び地域共創学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、地域づくり学科のカリキュラム・ポリシーを以下のとおり定めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を多面的に解決するために、複数のものの見方を身につける専門横断的な教育。 2. 法学、行政学系の理論と演習科目を配置し、行政の基礎知識を身につける教育。 3. 地域の課題を探る社会調査力と実践的解決力を身につける理論と演習科目を配置し、実践的解決力を涵養する教育。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>九州産業大学のアドミッション・ポリシーを受けて、本学部では、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者の選抜を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の理想と理念を理解し、観光や地域の活性化に関心があり、学習意欲が高い人 2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人 <p>《観光学科》</p> <p>大学及び地域共創学部のアドミッション・ポリシーに基づき、観光学科のアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めている。</p> <p>観光学科では、上の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人との交流やホスピタリティ産業に関心があり、観光に関する専門的な知識を習得したい人 2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめる力を身につけたい人 3. 自然や文化を愛し、それらとのかかわりを通じて豊かな人間性を育みたい人 4. 地域や郷土を愛し、それらの発展に寄与したい人 <p>《地域づくり学科》</p> <p>大学及び地域共創学部のアドミッション・ポリシーに基づき、地域づくり学科のアドミッション・ポリシーを以下のとおり定めている。</p>

地域づくり学科では、上の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。

1. 地域の活性化や振興に興味があり、学習意欲が高い人
2. 地域の人々との協同活動に不可欠な、コミュニケーション力を身につけたい人
3. 自らの意志で積極的かつ頻繁に地域に足を運ぶことをいとわない人

学部等名：理工学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf

（概要）

《理工学部》

理工学部では、社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、情報科学・機械工学・電気工学及びこれらを横断・融合した情報メカトロニクス分野における理論と技術（専門技術力）、高い知性と豊かな感性を持ち社会で活躍できる力（社会実践力）を習得することで、卒業する学生一人ひとりに自信と達成感を持たせることを教育研究上の目的とする。

《情報科学科》

情報科学科では、情報技術を中心に学修する情報技術コースと伝統的な数学を系統的に学び、更に、情報数学を学修する情報数理コースの2つのコースを設置する。情報技術コースには、国際的に通用する技術者教育プログラムを用意し、情報技術の基礎を確実に身に付け高い倫理観を持った職業人として社会に貢献できる能力を身に付けることを到達目標としている。一方、情報数理コースでは、伝統的な数学として、微分積分、線形代数、確率統計等を学び、数学的な基礎を確かなものとし、また、情報数学としてコンピュータと共に発展してきた数学の分野である離散数学、数理論理学等を学修し、中学校や高等学校等の純粋数学の教育者として、あるいは数学と情報の応用分野の職業人として社会に貢献できる能力を身に付けることを教育研究上の目的とする。

《機械工学科》

機械工学科では、ロボット、メカトロニクスを含む機械分野の仕事に必要とされるデザイン能力の習得を目標とする。工学におけるデザインとは、企画、仕様、設計、加工、組立及び検査に至るモノづくりにおける総合的な能力を示している。総合的な基礎学力からロボット、メカトロニクスを含む機械工学の基礎までを段階的に学び仕事に生かせるように、座学のみならず実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムを編成することで、創造性豊かな専門技術者を育成することを教育研究上の目的とする。

《電気工学科》

電気工学科では、電気回路・電磁気に関する専門基礎の理解の上に、電気エネルギーコースでは電力と情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、また、通信システムコースでは情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、これらを実務に適用し得る能力を習得していること並びに論理的に説明・討論するコミュニケーション能力と技術者倫理を身に付けることを教育研究上の目的とする。

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 理工学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各学科（情報科学科、機械工学科、電気工学科）における基礎的な専門知識を修得し、かつ専門知識を様々なアプリケーションに活用できる。 2. 論理的思考力・コミュニケーション能力・協調性・主体性・技術者としての倫理観を身に付け、創造力・実践力を発揮できる。 3. 情報メカトロニクスに関わる技術・技能を修得し、地域社会の発展に貢献できる。 <p>《情報科学科》 情報科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報技術及び情報数理における基礎的な専門知識を修得し活用できる。 2. 情報分野を基盤とした機械・電気工学の分野において活躍できる。 3. 高い倫理観を持った技術者として円滑なコミュニケーションを図りながら地域社会の発展に貢献できる。 <p>《機械工学科》 機械工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械・ロボット・メカトロニクス分野の仕事で必要とされる基礎的な数理学、機械工学の基礎及びこれらを産業界で生かすことができる。 2. 技術者として必要とされる倫理観、協調性を備え、コミュニケーション能力、問題解決能力を発揮できる。 <p>《電気工学科》 電気工学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気回路・電磁気に関する専門基礎の理解の上に、電力と情報通信に関連したエネルギー及びシステムに関する高度な専門知識と技術を学び、これらを実務に適用できる。 2. 技術者倫理を身に付け、論理的に説明・討論するコミュニケーション能力を発揮できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） （2021年度以降入学生適用） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf （2017～2020年度入学生適用） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2020/curriculum-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） （2021年度以降入学生適用） 理工学部では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然科学の仕組みを理解する幅広い知識を養うためのKSU 基盤教育、産業界・地域社会の要望に応えるための専門教育 2. 学部単位で仲間と助け合いながら、チームで課題解決に取り組むプロジェクトデザイン教育 3. 協調性・主体性・積極性・独創性を育み、コミュニケーション力・課題解決力を養い、理工学分野において付加価値が高い技術を生み出すための教育 4. モノづくり等の生産現場で活躍するための教育

《情報科学科》

情報科学科では、学部の要件に加え、次のように科目を編成し、講義で理論・知識の基礎を体系的に身につけるとともに、演習・実験でそれを実践する教育を実施する。

1. 「専門基礎科目」による情報領域の基礎分野の教育
2. 「情報数理科目」による数学的な理論的基礎の幅広い教育
3. 「計算機科学科目」による計算機科学の基礎分野の教育
4. 「専門展開科目」による情報技術及び情報数理の応用分野の教育
5. 「実践力育成科目」による実践的に活用できる人材を育成する教育

《機械工学科》

機械工学科では、学部の要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 数学や物理の基礎から、ロボット・メカトロニクスを含む機械工学を段階的に学ぶための教育
2. 産業界で生かせるように、座学のみならず演習・実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムによる教育
3. 機械、ロボット、生産技術に分けた「コース専門科目」等により現場で役立つ実践力を育成する教育

《電気工学科》

電気工学科では、学部の要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 1、2年次には技術者キャリア形成、工学基礎、専門基礎など基礎力養成の教育
2. 3、4年次には電気エネルギー又は通信システムコースの専門を深く学ばせ、また、KSU プロジェクト型教育、実験や卒業研究で実践力修得の教育
3. 演習で資格取得をサポートし、基礎・応用力を伸ばす教育

(2017～2020年度入学生適用)

理工学部では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような教育を実施する。

1. 自然科学の仕組みを理解する幅広い知識を養うためのKSU 基盤教育、産業界・地域社会の要望に応えるための専門教育
2. 学部単位で仲間と助け合いながら、チームで課題解決に取り組むプロジェクトデザイン教育
3. 協調性・主体性・積極性・独創性を育み、コミュニケーション力・課題解決力を養い、理工学分野において付加価値が高い技術を生み出すための教育
4. モノづくり等の生産現場で活躍するための教育

《情報科学科》

情報科学科では、学部の要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 「専門基礎科目」による情報領域の基礎分野の教育
2. 「情報数理科目」による数学的な理論的基礎の幅広い教育
3. 「計算機科学科目」による計算機科学の基礎分野の教育
4. 「専門展開科目」による情報技術及び情報数理の応用分野の教育
5. 「実践力育成科目」による実践的に活用できる人材を育成する教育

《機械工学科》

機械工学科では、学部の要件に加え、次のような教育を実施する。

1. 数学や物理の基礎から、ロボット・メカトロニクスを含む機械工学を段階的に学ぶための教育
2. 産業界で生かせるように、座学のみならず演習・実験・実習を積極的に取り入れた体系的なカリキュラムによる教育
3. 機械、ロボット、生産技術に分けた「コース専門科目」等により現場で役立つ実践力を育成する教育

<p>《電気工学科》</p> <p>電気工学科では、学部の要件に加え、次のような教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1、2年次には技術者キャリア形成、工学基礎、専門基礎など基礎力養成の教育 2. 3、4年次には電気エネルギー又は通信システムコースの専門を深く学ばせ、また、KSU プロジェクト型教育、実験や卒業研究で実践力修得の教育 3. 演習で資格取得をサポートし、基礎・応用力を伸ばす教育
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>理工学部に関連する学術分野で、創造的活動を行う人材と人間性豊かで国際的視野を持った人材を育成するために、次のような学生を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報科学・機械工学・電気工学又は情報メカトロニクスに興味がある人 2. 好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人 3. 客観的な視点で物事を判断でき、自分の考えをまとめることができる人 4. 情報メカトロニクスに関連する分野の研究者・教育者を目指している人 <p>《情報科学科》</p> <p>情報科学科では、学部の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報技術や情報数理に強い興味を持っている人 2. 情報科学に関する専門知識を身に付けようとする意欲が高く、技術の修得にも積極的に取り組む人 3. 情報分野を基盤とした機械工学や電気工学に関心を持ち、多面的な視点から創造活動を行うことを目指す人、修得した知識を生かして地域社会に貢献したいと考えている人 <p>《機械工学科》</p> <p>機械工学科では、学部の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械・自動車・産業用／介護用ロボット・メカトロニクスを含む機械工学に興味がある人 2. 機械工学に関する専門知識を身に付けようとする意欲が高く、技術の修得にも積極的に取り組む人 3. 学修の成果を機械工学に関連する業務の現場で生かすことで、地域社会に貢献したいと考えている人 <p>《電気工学科》</p> <p>電気工学科では、学部の要件に加え、次の意欲を持った人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境と技術の調和、社会的要請及び責任を重んじる人 2. クリーンエネルギー、燃料電池、電気モータ、パワーエレクトロニクス及び超伝導などの電気エネルギーに関心を持つ人 3. 通信ネットワーク、情報処理、ワンセグ及び半導体デバイスなどの通信システムに関心を持つ人

<p>学部等名：生命科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>生命科学科では、「応用化学コース」「生命科学コース」「食品科学コース」のそれぞれの専門分野において、企画・研究・開発・生産・品質管理等幅広い専門知識と実践的技術の習得を教育研究上の目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 生命科学部では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を備えている。 2. 化学又は生物学領域の基礎的知識と専門的知識を理解し、活用することができる。 3. 化学又は生物学領域の実験技術を修得し、結果の分析や考察を通して成果をまとめ、発表することができる。 4. 応用化学、生命科学又は食品科学分野に関する課題を積極的に発見し、解決方法を思考することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 生命科学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般教養科目を通して、社会・文化・自然に関する幅広い視野と教養を身に付ける。 2. 化学又は生物学を基盤とした複数領域の専門科目を通して、応用化学、生命科学又は食品科学分野で必要となる専門知識を身に付ける。 3. 系統立てた複数の実験科目を通して、実験技術や論理的思考力を身に付ける。 4. 卒業研究及び卒研ゼミナールを通して、課題発見能力や問題解決能力を身に付ける。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 生命科学部は、次の能力・意欲を持った人材を積極的に受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野を学ぶ上で必要となる数学、国語、英語等の基礎学力を有する人 2. 化学又は生物学領域の専門分野に興味があり、知識や技術を活かして社会に貢献したいと思っている人 3. 広い視野と公平・公正な判断力を養うために、幅広い学問領域についても学習する意欲のある人 4. 学内外の様々な活動に対して、協調性を持ちながら積極的に取り組むことのできる人 5. 友愛の精神を持って勉学しようとする人

<p>学部等名：建築都市工学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表） （2022年度以降入学生適用） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf （2021年度以前入学生適用） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/human-training_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） （2022年度以降入学生適用） 建築都市工学部では、幅広い教養と建築学、住居・インテリア学、都市デザイン工学に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。</p>

《建築学科》

建築学科では、建築設計・計画・歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、①人々を包み込む基本的な空間、②人々が住まう住居、③オフィスや商空間といった業務系施設のインテリア、④住居と業務系施設を複合した住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

(2021年度以前入学生適用)

建築都市工学部では、幅広い教養と建築学、住居・インテリア学、都市デザイン工学に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

《建築学科》

建築学科では、建築設計・計画・歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、建築学一般をはじめ、住居・インテリアに関する幅広い知識を基盤にした設計・デザインに関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識を備え、適切に活用できる能力、論理的に思考し、判断することのできる能力、当該分野に関する技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる能力、多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会の発展に貢献する能力、広い視野を持って、主体的に他者と協力する能力を備え、多様な社会のニーズに応えることのできる実践的能力を学生に修得させることを教育研究上の到達目標とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

（2023年度入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf

（2022年度入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2022/diploma-policy_daigaku.pdf

（2021年度以前入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/diploma-policy_daigaku.pdf

（概要）

（2023年度入学生適用）

建築都市工学部では、幅広い教養と建築都市工学に関する専門的知識及び技術・技能を学修し、次の実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生に卒業を認定し、学士（工学）を授与する。

1. 専門的知識を適切に活用できる能力
2. 論理的に思考し、判断する能力
3. 専門的技術・技能を学修し、創造力・実践力を発揮する能力
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会発展に貢献する能力
5. 広い視野を持ち、他者と協力する能力
6. 情報技術を活用することができる能力

《建築学科》

建築学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 建築設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 建築学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 都市デザイン工学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

（2022年度入学生適用）

建築都市工学部では、幅広い教養と建築都市工学に関する専門的知識及び技術・技能を学修し、次の実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生に卒業を認定し、学士（工学）を授与する。

1. 専門的知識を適切に活用できる能力
2. 論理的に思考し、判断する能力
3. 専門的技術・技能を学修し、創造力・実践力を発揮する能力
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会発展に貢献する能力
5. 広い視野を持ち、他者と協力する能力

《建築学科》

建築学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 建築設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 建築学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 都市デザイン工学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

（2021年度以前入学生適用）

建築都市工学部では、幅広い教養と建築都市工学に関する専門的知識及び技術・技能を学修し、次の実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生に卒業を認定し、学士（工学）を授与する。

1. 専門的知識を適切に活用できる能力
2. 論理的に思考し、判断する能力
3. 専門的技術・技能を学修し、創造力・実践力を発揮する能力
4. 多様な人々とコミュニケーションを行い、熱意を持って社会発展に貢献する能力
5. 広い視野を持ち、他者と協力する能力

《建築学科》

建築学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 建築設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 建築学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 住宅を中心に建築学一般などのハードなものづくり領域及び住居・インテリアに関わる幅広いソフトなものづくり領域に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 住居・インテリア学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、次の学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与する。

1. 安心・安全で、美しく、自然に配慮した都市や公共施設の計画、設計、施工、維持管理に関する専門的知識及び技術・技能を学修した学生
2. 都市デザイン工学に関する実践的能力を備え、広く社会の期待に応えられる学生

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）
（2022年度以降入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf

（2020～2021年度入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/curriculum-policy_daigaku.pdf

（2017～2019年度入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2019/curriculum-policy_daigaku.pdf

（概要）

（2022年度以降入学生適用）

建築都市工学部では、KSU 基盤教育と専門科目の正課教育を行うと同時に KSU プロジェクト型教育及びその他の正課外教育を行う。

1. 国土強靱化、インフラ及び建築物の長寿命化、住環境ストックの有効活用などの広く社会の期待に応えるための建築都市工学分野に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築都市工学分野において地域に貢献する人材を育成する。

《建築学科》

建築学科では、地方の建設業界で活躍する建築士を目指す建築学科建築基本コース、国際的に通用する建築士を目指す建築学科建築総合コースを設け、建築の計画歴史、環境設備、構造生産に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための建築学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築学分野において地域に貢献する能力を育成する。

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、住居・インテリア学を幅広く学ぶ基本コース、プロジェクト型教育を重視した地域貢献実践コースを設け、設計・デザイン分野、エンジニア分野、リノベーション分野、さらに広く生活空間の歴史や文化に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための住居・インテリア学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、住居・インテリア学分野において地域に貢献する能力を育成する。

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、従来の土木工学における基礎的学問領域に加え、「土木デザイン」「都市防災」「まちづくり」「環境緑化」分野及び技術士養成プログラムにおいて応用知識やエンジニアリングデザイン能力に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための都市デザイン工学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、都市デザイン工学分野において地域に貢献する能力を育成する。

（2020～2021年度入学生適用）

建築都市工学部では、KSU 基盤教育と専門科目の正課教育を行うと同時に KSU プロジェクト型教育及びその他の正課外教育を行う。

1. 国土強靱化、インフラ及び建築物の長寿命化、住環境ストックの有効活用などの広く社会の期待に応えるための建築都市工学分野に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築都市工学分野において地域に貢献する人材を育成する。

《建築学科》

建築学科では、地方の建設業界で活躍する建築士を目指す建築学科建築基本コース、国際的に通用する建築士を目指す建築学科建築総合コースを設け、建築の計画歴史、環境設備、構造生産に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための建築学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築学分野において地域に貢献する能力を育成する。

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、住居・インテリア学を幅広く学ぶ基本コース、プロジェクト型教育を重視した地域貢献実践コースを設け、設計・デザイン分野、エンジニア分野、リノベーション分野、さらに広く生活空間の歴史や文化に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための住居・インテリア学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、住居・インテリア学分野において地域に貢献する能力を育成する。

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、従来の土木工学における基礎的学問領域に加え、「土木デザイン」「都市防災」「まちづくり」「環境緑化」分野及び技術士養成プログラムにおいて応用知識やエンジニアリングデザイン能力に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための都市デザイン工学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、都市デザイン工学分野において地域に貢献する能力を育成する。

(2017～2019年度入学生適用)

建築都市工学部では、KSU 基盤教育と専門科目の正課教育を行うと同時に KSU プロジェクト型教育及びその他の正課外教育を行う。

1. 国土強靱化、インフラ及び建築物の長寿命化、住環境ストックの有効活用などの広く社会の期待に応えるための建築都市工学分野に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築都市工学分野において地域に貢献する人材を育成する。

《建築学科》

建築学科では、地方の建設業界で活躍する建築士を目指す建築基本コース、国際的に通用する建築士を目指す建築総合コースを設け、建築の計画歴史、環境設備、構造生産に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための建築学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、建築学分野において地域に貢献する能力を育成する。

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科では、住居・インテリア学を幅広く学ぶ基本コース、プロジェクト型教育を重視した地域貢献実践コースを設け、設計・デザイン分野、エンジニア分野、リノベーション分野、さらに広く生活空間の歴史や文化に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための住居・インテリア学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、住居・インテリア学分野において地域に貢献する能力を育成する。

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科では、従来の土木工学における基礎的学問領域に加え、「土木デザイン」「都市防災」「まちづくり」「環境緑化」分野及び技術士養成プログラムにおいて応用知識やエンジニアリングデザイン能力に関する専門教育を行う。

1. 広く社会の期待に応えるための都市デザイン工学に関する実践的能力を育成する。
2. 豊かな人間性を持って、都市デザイン工学分野において地域に貢献する能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）
（2022年度以降入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf

（2021年度以前入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/admission-policy_daigaku.pdf

（概要）

（2022年度以降入学生適用）

建築都市工学部は、工学における基礎的知識をベースに、国土から住まいまで連続する空間のあり方を追求する広い視野を持ち、多様な社会ニーズに応えることのできる実践的能力を有した人材養成のため、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築都市工学に関する学修意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 建築都市工学分野において卓越した能力を持っている人

《建築学科》

建築学科では、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築の設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する学修意欲の高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 建築学分野において卓越した能力を持っている人

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科は、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. ①空間、②住居、③業務系施設のインテリア、④住居系複合施設のインテリアの設計に対して強い関心があり、住まう空間・働く空間・商空間の在り方、リノベーション、住環境評価に関する学修意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 住居・インテリア学分野において卓越した能力を持っている人

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科は、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 持続可能な環境づくりや、災害に強く、安心・安全で美しく住みやすいまちづくりに関する学修意欲の高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 都市デザイン工学分野において卓越した能力を持っている人

（2021年度以前入学生適用）

建築都市工学部は、工学における基礎的知識をベースに、国土から住まいまで連続する空間のあり方を追求する広い視野を持ち、多様な社会ニーズに応えることのできる実践的能力を有した人材養成のため、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築都市工学に関する学修意欲が高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 建築都市工学分野において卓越した能力を持っている人

《建築学科》

建築学科では、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建築の設計・計画、建築歴史・意匠、建築構造・材料・構法、建築環境・設備、都市計画に関する学修意欲の高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 建築学分野において卓越した能力を持っている人

《住居・インテリア学科》

住居・インテリア学科は、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 住居、ショップ、オフィスまたそのインテリアの設計・デザイン、リフォーム・リノベーション、住宅の施工・構造・設備、そして広く生活空間の歴史や文化・まちづくりに関する学修意欲の高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 住居・インテリア学分野において卓越した能力を持っている人

《都市デザイン工学科》

都市デザイン工学科は、次の人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 持続可能な環境づくりや、災害に強く、安心・安全で美しく住みやすいまちづくりに関する学修意欲の高い人
2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
3. 都市デザイン工学分野において卓越した能力を持っている人

学部等名：芸術学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

（2020年度以降入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf

（2016～2019年度入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2018/human-training_daigaku.pdf

（概要）

（2020年度以降入学生適用）

社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、芸術の各分野における理論と技能を兼ね備え、高い知性と豊かな感性を持つ専門能力の習得を目指しており、芸術に関する基盤的な知識と各専門分野の教育を行い、「基礎的教養」「専門的知識」「論理的思考力」「実践力」「コミュニケーション力」「主体的行動力」を身に付けさせることを教育研究上の目的とする。

（芸術表現学科）

芸術表現分野の専門家として必要な「造形力」や「審美力」を養う。地域やグローバル社会へ向けて文化貢献ができることを目指し、伝統的な表現と次世代の表現を担う画家、造形作家、フィギュア作家、メディアアーティスト等を目指すことを教育研究上の目的とする。

（写真・映像メディア学科）

写真・映像メディア分野の専門家として必要な「想像力」や「行動力」を習得させることを教育研究上の目的とする。

(ビジュアルデザイン学科)

情報技術の進展に対応したデジタル機器を備えた教育環境のもと、実習・演習を中心とした授業を通して、現代または将来の社会要請に応えることができる実践的なデザイナー能力を習得させることを教育研究上の目的とする。

(生活環境デザイン学科)

「造形力」、「構成力」、などを身に付け、その分野の高度な専門家としての人材を養成する。より幅広い領域にも応用できるデザインのマインドも養い、実践力のある柔軟な人材を養成することを教育研究上の目的とする。

(ソーシャルデザイン学科)

ソーシャルデザインに欠かせない「問題発見能力」と「解決提案能力」という2つの能力の習得することを教育研究上の目的とする。

(2016～2019 年度入学生適用)

社会と文化の創造に貢献できる人材を養成するために、芸術の各分野における理論と技能を兼ね備え、高い知性と豊かな感性を持つ専門能力の習得を目指しており、「芸術に関する基盤的な知識」を活かしながら、「論理的思考力」、「創造力」、「コミュニケーション力」、「表現力」、「実践力」の5つの能力を身に付けさせることを教育研究上の目的とする。

(芸術表現学科)

芸術表現分野の専門家として必要な「造形力」や「審美力」を養う。地域やグローバル社会へ向けて文化貢献ができることを目指し、伝統的な表現と次世代の表現を担う画家、造形作家、フィギュア作家、メディアアーティスト等を目指すことを教育研究上の目的とする。

(写真・映像メディア学科)

写真・映像メディア分野の専門家として必要な「想像力」や「行動力」を習得させることを教育研究上の目的とする。

(ビジュアルデザイン学科)

情報技術の進展に対応したデジタル機器を備えた教育環境のもと、実習・演習を中心とした授業を通して、現代または将来の社会要請に応えることができる実践的なデザイナー能力を習得させることを教育研究上の目的とする。

(生活環境デザイン学科)

「造形力」、「構成力」、などを身に付け、その分野の高度な専門家としての人材を養成する。より幅広い領域にも応用できるデザインのマインドも養い、実践力のある柔軟な人材を養成することを教育研究上の目的とする。

(ソーシャルデザイン学科)

ソーシャルデザインに欠かせない「問題発見能力」と「解決提案能力」という2つの能力の習得することを教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf

（概要）

芸術学部では、アーティスト、デザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者として次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 芸術の各分野における幅広い知識を備え、適切に活用できる。
2. 芸術の各分野における技術・技能を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 高い知性と豊かな感性を備え、社会と文化の発展に貢献できる。

《芸術表現学科》

芸術表現学科はアーティスト、クリエイター、研究者として次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 自律した豊かな思考理論と学際的な専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 高度な表現技術と表現技法を修得し、優れた創造力と審美力を発揮できる。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術の芸術表現を通じて、芸術文化の創造に主体的に貢献できる。

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科はスペシャリストとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する今日の社会の要求に素早く対応する幅広い教養と専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 自己を発信する技術・技法を修得し、想像力・実践力を発揮できる。
3. 写真や映像メディアを通じて主体的に社会と文化の発展に貢献できる。

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 現代社会における多様なビジュアルコミュニケーションの専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 編集や伝達に関する技術・技法を修得し、表現力・実践力を発揮できる。
3. グラフィックデザイン、イラストレーションデザインを通じて社会と文化の発展に貢献できる。

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 多様化する社会において、豊かな暮らしや環境をつくる専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 造形や構成等の技術・技法を修得し、創造力・実践力を発揮できる。
3. 工芸、プロダクト、空間演出を通じて社会と文化の発展に貢献できる。

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科はデザイナーとして次の能力を備えた学生に学位を授与する。

1. 将来の地域社会のブランドづくりのための専門知識を備え、適切に活用できる。
2. 情報伝達や企画構築の技術・技法を修得し、提案力・実践力を発揮できる。
3. 情報デザイン、ブランドづくりを通じて地域文化や地域産業の発展に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）
（2020年度以降入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf

（2016～2019年度入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2018/curriculum-policy_daigaku.pdf

（概要）

（2020年度以降入学生適用）

芸術学部は、次の方針で人材を育成する。

1. 芸術の各分野の幅広い知識と技能を通じて、高い知性と豊かな感性を培い、社会と文化の発展に貢献する人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と各専門分野の教育を行い、「基礎的教養」「専門的知識」「論理的思考力」「実践力」「コミュニケーション力」「主体的行動力」を備えた人間性豊かな人材を育成する。
3. KSU プロジェクト型教育及び多様な専門教育を学び、芸術の各分野で実践できる人材を育成する。

《芸術表現学科》

芸術表現学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、豊かな思考理論を培い、次世代の芸術文化を主体的に創造できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と芸術表現分野の教育を行い、高度な表現技術と表現技法を備える人材を育成する。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術分野のそれぞれの多様な専門科目と高度な技術を学び、芸術表現の分野で実践できる人材を育成する。

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、幅広い教養を培い、写真、映像を通して社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識と写真、映像メディア分野の教育を行い、自己を発信する技術と技法を備える人材を育成する。
3. 写真、映像メディアそれぞれの多様な専門科目と高度な制作技術を学び、写真・映像メディア分野で実践できる人材を育成する。

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、ビジュアルコミュニケーション能力を培い、社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識とビジュアルデザイン分野の教育を行い、高い編集力や伝達力を備える人材を育成する。
3. グラフィック、イラストレーションそれぞれの多様な専門科目と多様な表現技術を学び、ビジュアルデザインの分野で実践できる人材を育成する。

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、豊かな暮らしや環境をつくる能力を培い、社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。

2. 芸術に関する基盤的な知識と生活環境デザイン分野の教育を行い、高い造形力や構成力等を備える人材を育成する。
3. 工芸、プロダクト、空間演出それぞれの多様な専門科目と多様な技術・技法を学び、生活環境デザインの分野で実践できる人材を育成する。

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、ブランドづくりの能力を培い、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識とソーシャルデザイン分野の教育を行い、高い情報伝達力や企画構築力を備える人材を育成する。
3. 情報デザイン、地域ブランド企画それぞれの多様な専門科目と多様な技術・技法を学び、ソーシャルデザインの分野で実践できる人材を育成する。

(2016～2019 年度入学生適用)

芸術学部は、次の方針で人材を育成する。

1. 芸術の各分野の幅広い知識と技能を通じて、高い知性と豊かな感性を培い、社会と文化の発展に貢献する人材を育成する。
2. 「芸術に関する基盤的な知識」を活かす5つの能力「論理的思考力」「コミュニケーション力」「創造力」「表現力」「実践力」と各専門分野の教育を行い、豊かな人間性を持った人材を育成する。
3. KSU プロジェクト型教育及び多様な専門教育を学び、芸術の各分野で実践できる人材を育成する。

《芸術表現学科》

芸術表現学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、豊かな思考理論を培い、次世代の芸術文化を主体的に創造できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識を活かす5つの能力と芸術表現分野の教育を行い、高度な表現技術と表現技法を備える人材を育成する。
3. 絵画・立体造形・メディア芸術分野のそれぞれの多様な専門科目と高度な技術を学び、芸術表現の分野で実践できる人材を育成する。

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、幅広い教養を培い、写真、映像を通して社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識を活かす5つの能力と写真、映像メディア分野の教育を行い、自己を発信する技術と技法を備える人材を育成する。
3. 写真、映像メディアそれぞれの多様な専門科目と高度な制作技術を学び、写真・映像メディア分野で実践できる人材を育成する。

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、ビジュアルコミュニケーション能力を培い、社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識を活かす5つの能力とビジュアルデザイン分野の教育を行い、高い編集力や伝達力を備える人材を育成する。
3. グラフィック、イラストレーションそれぞれの多様な専門科目と多様な表現技術を学び、ビジュアルデザインの分野で実践できる人材を育成する。

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、豊かな暮らしや環境をつくる能力を培い、社会と文化の発展に貢献できる人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識を活かす5つの能力と生活環境デザイン分野の教育を行い、高い造形力や構成力等を備える人材を育成する。
3. 工芸、プロダクト、空間演出それぞれの多様な専門科目と多様な技術・技法を学び、生活環境デザインの分野で実践できる人材を育成する。

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科は、次の方針で人材を育成する。

1. 学際的な教育を通じて、ブランドづくりの能力を培い、地域社会の発展に貢献する人材を育成する。
2. 芸術に関する基盤的な知識を活かす5つの能力とソーシャルデザイン分野の教育を行い、高い情報伝達力や企画構築力を備える人材を育成する。
3. 情報デザイン、地域ブランド企画それぞれの多様な専門科目と多様な技術・技法を学び、ソーシャルデザインの分野で実践できる人材を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf

（概要）

芸術学部は、次の能力・資質を持った人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。

1. 建学の理想と理念を理解し、アートやデザインの分野に興味があり、創作意欲のある人
2. 好奇心を持ち、何事にも積極的に取り組む人
3. 客観的な視点で物事を判断でき、自己を発信できる人
4. 将来アーティストやデザイナー、写真家等のクリエイターや研究者・教育者を目指している人

《芸術表現学科》

芸術表現学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 絵画・立体造形・メディア芸術分野に興味があり、創作意欲のある人
2. 伝統的な技法から先端的な技術まで、好奇心を持って幅広く探究する人
3. 自由で豊かな発想と論理的思考能力を持っている人
4. 芸術表現の分野に意欲的に挑戦しアーティスト、クリエイター、教育・研究者を目指す人

《写真・映像メディア学科》

写真・映像メディア学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 写真や映像メディアの技術に興味があり、創作意欲のある人
2. 伝統的な技法から先端的な技術まで幅広く探求する人
3. 芸術性や実用性について、多面的に考察できる能力を持っている人
4. 写真のスペシャリストや映像メディアの表現者を目指している人

《ビジュアルデザイン学科》

ビジュアルデザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. ビジュアルデザインに興味があり、創作意欲のある人
2. 社会におけるビジュアルコミュニケーションの機能や役割を探求する人
3. ビジュアルデザインを多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. グラフィックデザイナーやイラストレーター等のクリエイターを目指している人

《生活環境デザイン学科》

生活環境デザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 工芸、プロダクト、空間演出それぞれのデザインに興味があり、創作意欲のある人
2. 伝統的なモノづくりや新たなモノづくりの技術・技法や考え方を探求する人
3. 人間の生活環境を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. 生活環境デザイン分野のクリエイターを目指している人

《ソーシャルデザイン学科》

ソーシャルデザイン学科は、次の能力・資質を持った人材を積極的に受け入れる。

1. 情報伝達やブランド企画構築に興味があり、創作意欲のある人
2. 地域産業や地域文化、地域創生の技術・技法を幅広く探求する人
3. 地域社会の課題を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人
4. ソーシャルデザイン分野のクリエイターやプロデューサーを目指している人

学部等名：国際文化学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf

（概要）

国際文化学部は、世界と日本の文化に関する共通科目群、言語・文化に関する多彩な専門科目群、および創造力・指導力・コミュニケーション能力を養成するゼミナール系科目群を通して、グローバル化する現代社会に対応できる教養と、専門的な知識と技術を習得させることを教育研究上の目的とする。

《国際文化学科》

国際文化学科の教育研究上の目的は、高度な英語コミュニケーション力とアジア・欧米諸国の言語・文化・歴史の理解に根ざした国際教養を身につけることにより、グローバル社会を生き抜くための多角的な視点、卓越した英語力、他者と協調する姿勢、問題発見や解決のスキルを習得させることである。

《日本文化学科》

日本文化学科の教育研究上の目的は、日本文化を文学・言語・歴史・民俗といった多角かつ専門的な見地から理解するとともに、グローバルな視野から異なる文化や価値観を尊重する姿勢を身につけることにより、日本の文化の魅力や課題を発見・解決するための実践力を習得させることである。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf

（概要）

本学部では、次の能力を備え、学則で定められた所定の課程を修了した学生に学士の学位を授与する。

1. 諸外国と日本の文化について幅広い教養を身につけ、さらにそれを専門的に探究できる。
2. 文化や国際事情に関する自らの知識や考えを論理的に表現する力を有している。
3. グローバル社会で活躍できる高度なコミュニケーション力と問題解決力を有している。

《国際文化学科》

国際文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を備えている。
2. 現代社会の多様な文化や価値観を認識し、いかに行動すべきかを自ら判断できる。
3. 国際社会の動向と問題に高い関心を持ち、その解決方法を広く社会に発信することができる。

《日本文化学科》

日本文化学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 日本文化について、専門的資料や現地調査を通してその課題を把握し、その問題に対応できる。
2. 多文化社会における日本文化のあり方を、グローバルな視点から相対的に思考・判断することができる。
3. 日本文化について学んで得た知識や考えを、言葉や文章を通して論理的に説明し、社会に広く発信することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）
（2023年度入学者適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf

（2021～2022年度入学者適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2022/curriculum-policy_daigaku.pdf

（2020年度以前入学者適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2020/curriculum-policy_daigaku.pdf

（概要）

（2023年度入学者適用）

大学のカリキュラム・ポリシーのもと、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科の専門科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

1. 諸外国と日本の文化を学び、現代の国際社会への視野を広げる教育
2. 多様な価値観を積極的に受容し考察する力を養う教育
3. グローバル社会で自らの知見を発信する行動力と表現力を養う教育

《国際文化学科》

国際文化学科では、学部の要件に加えて次のような科目からなるカリキュラムを設置している。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を養う教育
2. アジアや欧米の文化について幅広い知識を育み、国際社会の理解を促す教育
3. 現地実習等を基に多様な価値観を知り、グローバル社会の問題を理解し解決しようとする行動力を養う教育

《日本文化学科》

大学および学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、日本文化学科のカリキュラム・ポリシーを以下のように定めている。

1. 日本文化の専門知識を身につけるため、学科展開科目の中に「文学・語学科目」「歴史・民俗学科目」の2つの科目群を設け、さらに、応用・実践力を身につけるための「資格科目」を設けている。
2. 学科専門科目においては、学生の能動的学修を促し、かつ学修の効果を高めるため、それぞれの分野ごとに履修の順序性を設定し、段階的かつ体系的な履修ができるよう教育課程を編成している。

3. 演習科目においては、学生が主体的な学びを实践できるよう、少人数ゼミナール科目を設け、全学年で必修科目としている。また、実践力を高めるための実地演習科目である「文学実地踏査」を、全学生が履修する選択必修科目として配置している。

(2021～2022 年度入学生適用)

大学のカリキュラム・ポリシーのもと、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科の専門科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

1. 諸外国と日本の文化を学び、現代の国際社会への視野を広げる教育
2. 多様な価値観を積極的に受容し考察する力を養う教育
3. グローバル社会で自らの知見を発信する行動力と表現力を養う教育

《国際文化学科》

国際文化学科では、学部の要件に加えて次のような科目からなるカリキュラムを設置している。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を養う教育
2. アジアや欧米の文化について幅広い知識を育み、国際社会の理解を促す教育
3. 現地実習等を基に多様な価値観を知り、グローバル社会の問題を理解し解決しようとする行動力を養う教育

《日本文化学科》

大学および学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、日本文化学科のカリキュラム・ポリシーを以下のように定めている。

1. 日本文化の専門知識を身につけるため、学科展開科目の中に「日本文学科目」「国語学科目」「民俗学科目」「歴史学科目」の4つの科目群を設け、さらに、応用・実践力を身につけるための「展開共通科目」を設けている。
2. 学科専門科目においては、学生の能動的学修を促し、かつ学修の効果を高めるため、それぞれの分野ごとに履修の順序性を設定し、段階的かつ体系的な履修ができるよう教育課程を編成している。
3. 演習科目においては、学生が主体的な学びを实践できるよう、少人数ゼミナール科目を設け、全学年で必修科目としている。また、実践力を高めるための実地演習科目である「文学実地踏査」を、全学生が履修する選択必修科目として配置している。

(2020 年度以前入学生適用)

大学のカリキュラム・ポリシーのもと、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科の専門科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

1. 諸外国と日本の文化を学び、現代の国際社会への視野を広げる教育
2. 多様な価値観を積極的に受容し考察する力を養う教育
3. グローバル社会で自らの知見を発信する行動力と表現力を養う教育

《国際文化学科》

国際文化学科では、学部の要件に加えて次のような科目からなるカリキュラムを設置している。

1. 現代社会で活躍できる語学力及びコミュニケーション力を養う教育
2. アジアや欧米の文化について幅広い知識を育み、国際社会の理解を促す教育
3. 現地実習等を基に多様な価値観を知り、グローバル社会の問題を理解し解決しようとする行動力を養う教育

<p>《日本文化学科》</p> <p>日本文化学科では、学部の要件に加え、次のような教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文化を形づくる文学・言葉・民俗・歴史について、専門的な見地からの理解を育成する教育 2. 日本と諸外国の文化に関する理解を深め、異なる文化や価値観を尊重する姿勢を身につける教育 3. 日本文化について関心を深め、その魅力や課題を発見・解決するための実践力を身につける教育
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>九州産業大学のアドミッション・ポリシーに従い、一定の学力を有する人材の中から、次の能力と意欲を有する者を選抜し、本学部の学生として受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の理想と理念を十分に理解したうえで、諸外国と日本の文化理解に興味・関心を抱き、学習意欲の高い人物 2. 学問的関心を常に持ち、それを解決・発信する能力を身につけたい人物 <p>《国際文化学科》</p> <p>国際文化学科では、学部の要件に加え、次の能力と意欲を持つ人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の高度な運用力を身に付け、さらにその他の外国語を習得する意欲のある人 2. 諸外国の文化や国際事情を幅広く学びたい人 3. 外国語能力や外国文化の知識を活かし、コミュニケーション力を持って広く国際社会で活躍したい人 <p>《日本文化学科》</p> <p>日本文化学科では、学部の要件に加え、次の能力と意欲を持つ人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文化（文学・言葉・民俗・歴史）に関心がある人 2. 日本文化について、グローバルな視野から学ぶことに意欲のある人 3. 日本文化についての専門的な理解を通して、社会に貢献したいと考える人

<p>学部等名：人間科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/human-training_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>人間科学部を構成する3学科間の共通のテーマは「“人を支える人”を育てる」である。この共通のテーマを念頭に、人間科学部においては、人間を科学する観点から、「こころ」と「からだ」と「こども」の三分野において、人間理解のあり方、人間の発育や発達過程、保育学、スポーツ科学や健康科学の専門知識や研究・実践法を学び、人を支えるために必要な実践的専門知識と技能を習得させることを教育研究上の目的とする。</p> <p>《臨床心理学科》</p> <p>臨床心理学や精神保健福祉学の知識を実践に適用できる能力、優れたコミュニケーション能力をもって心の問題に対して深い理解と援助ができる能力、他者の心理を深く理解し、自己啓発を継続して行うことができる能力を習得させることを目的とする。</p> <p>《子ども教育学科》</p> <p>子どもを一人の人間として尊重し、乳幼児期が人間教育の基盤となる重要な時期であるとの子ども観・保育観の形成のために、乳幼児の心理学と保育学・教育学をベースとして、保育士資格及び幼稚園教諭資格の取得に必要な能力を習得させることを目的とする。また、</p>

特別な支援が必要な子どもを教育できる実践力を養成するために、特別支援教育に必要な専門的能力の習得も目的とする。

《スポーツ健康科学科》

「スポーツ」「健康」「ビジネス」「指導者」等をキーワードとして、スポーツ健康科学に関連する多彩な進路に対応可能なカリキュラムを編成し、健康マネジメント（健康経営）感覚をも含めた専門的能力と実践的スキルを習得させることを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

（2023年度入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/diploma-policy_daigaku.pdf

（2022年度入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2022/diploma-policy_daigaku.pdf

（2021年度以前入学生適用）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2021/diploma-policy_daigaku.pdf

（概要）

（2023年度入学生適用）

人間科学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、人間の成長及び発達過程を心身の両面から学び、人間を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技術を備えた、以下のような能力を修得した学生に学位（人間科学）を授与する。

1. 積極的かつ多様な方法により、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
2. 人間のこころとからだの発達に関する知識を修得し、専門的援助ができる。

《臨床心理学科》

臨床心理学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 臨床心理学をベースに置きながら、コミュニティ心理学、基礎心理学、精神保健福祉学、社会福祉学など多様な学びにより、人の心や生活に関する様々な問題に対応できる。
2. 他者の心理を深く理解し、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
3. 公認心理師や臨床心理士、精神保健福祉士等の対人援助職として、心の問題を持つ人を援助するための基礎的能力がある。

《子ども教育学科》

子ども教育学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 子どもの心身の健康を、守り育てる確かな知識と技術を修得し、活用できる。
2. 子どもとその家族への共感と人間愛を基盤とした適切な対応ができる。
3. 特別な支援を必要とする子どもに専門的援助ができる。

《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. スポーツ健康科学に関する専門知識を持ち、様々なスポーツ活動、健康行動を支援する取り組みができる。
2. 産業界に貢献できる健康マネジメント（健康経営）の視点を持ち、スポーツ健康関連課題を説明できる。
3. 運動とスポーツを通じ「生きる力」を育成し、子どもから高齢者の地域の人々が心身共に健康で豊かな生活を送れるよう支援できる。

(2022 年度入学生適用)

人間科学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、人間の成長及び発達過程を心身の両面から学び、人間を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技術を備えた、以下のような能力を修得した学生に学位（人間科学）を授与する。

1. 積極的かつ多様な方法により、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
2. 人間のこころとからだの発達に関する知識を修得し、専門的援助ができる。

《臨床心理学科》

臨床心理学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 臨床心理学をベースに置きながら、コミュニティ心理学、基礎心理学、精神保健福祉学、社会福祉学など多様な学びにより、人の心や生活に関する様々な問題に対応できる。
2. 他者の心理を深く理解し、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
3. 公認心理師や臨床心理士、精神保健福祉士等の対人援助職として、心の問題を持つ人を援助するための基礎的能力がある。

《子ども教育学科》

子ども教育学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 子どもの心身の健康を、守り育てる確かな知識と技術を修得し、活用できる。
2. 子どもとその家族への共感と人間愛を基盤とした適切な対応ができる。
3. 健康な子どもだけでなく、特別な支援を必要とする子どもに専門的援助ができる。

《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. スポーツ健康科学に関する専門知識を持ち、様々なスポーツ活動、健康行動を支援する取り組みができる。
2. 産業界に貢献できる健康マネジメント（健康経営）の視点を持ち、スポーツ健康関連課題を説明できる。
3. 運動とスポーツを通じ「生きる力」を育成し、子どもから高齢者の地域の人々が心身共に健康で豊かな生活を送れるよう支援できる。

(2021 年度以前入学生適用)

人間科学部が掲げる人材養成の目的に沿って構成されたカリキュラムのもと、人間の成長及び発達過程を心身の両面から学び、人間を支援するために必要な理論的かつ実践的な知識と技術を備えた、以下のような能力を修得した学生に学位（人間科学）を授与する。

1. 積極的かつ多様な方法により、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
2. 人間のこころとからだの発達に関する知識を修得し、専門的援助ができる。

《臨床心理学科》

臨床心理学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 臨床心理学をベースに置きながら、コミュニティ心理学、基礎心理学、精神保健福祉学、社会福祉学、社会学など多様な学びにより、人の心や生活に関する様々な問題に対応できる。
2. 他者の心理を深く理解し、様々な人と豊かなコミュニケーションをとることができる。
3. 認定心理士や精神保健福祉士等の対人援助職に就き、心の問題を持つ人を援助することができる。

《子ども教育学科》

子ども教育学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 子どもの心身の健康を、守り育てる確かな知識と技術を修得し、活用できる。
2. 子どもとその家族への共感と人間愛を基盤とした適切な対応ができる。
3. 健康な子どもだけでなく、特別な支援を必要とする子どもに専門的援助ができる。

《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. スポーツ健康科学に関する専門知識を持ち、様々なスポーツ活動、健康行動を支援する取り組みができる。
2. 産業界に貢献できる健康マネジメント（健康経営）の視点を持ち、スポーツ健康関連課題を説明できる。
3. 運動とスポーツを通じ「生きる力」を育成し、子どもから高齢者の地域の人々が心身共に健康で豊かな生活を送れるよう支援できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/curriculum-policy_daigaku.pdf

（概要）

人間科学部では、九州産業大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、全学共通の教養科目である基礎教育科目及び外国語科目と、本学部の共通科目を含む専門基礎科目群の設定により、学部共通の教育方針を明示し、各学科それぞれの専門教育科目群を段階的かつ系統的に学ぶことができるようにカリキュラムを構成している。

《臨床心理学科》

臨床心理学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 心の問題を持つ人を心理面及び生活面から援助できるように心理学、精神保健福祉学を総合的に学ぶカリキュラムによる教育
2. 公認心理師、精神保健福祉士、臨床心理福祉に分けたコース専門科目により、各現場で活用できる実践力を養成する教育
3. 心の問題を持つ人のコミュニティにおける様々な問題に対応できるように理論系の講義科目のみでなく、演習科目で援助の基礎・応用力を伸ばす教育

《子ども教育学科》

子ども教育学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 保育者としての基礎的理論や技能を取得する教育
2. 保育現場での子どもの理解を深め、子育て支援力を取得するための教育
3. 特別支援学校教諭一種免許取得及び卒業研究や演習・実習による実践力形成の教育

《スポーツ健康科学科》

スポーツ健康科学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次のような教育を実施する。

1. 学際的で専門的な知識をもとに、人々の活動的で健康的な生活を支える力と豊かな発想やコミュニケーション能力によって新たな可能性を開ける教育
2. 新しいスポーツ、健康関連ビジネスに関心を持ち、課題を解決するための企画運営を含めたスポーツマネジメント、健康マネジメント関連科目の体系的な教育
3. スポーツ活動を通じて、指導者として子どもたちの「生きる力」を育成し、適切な指導のもと健康維持・技能向上に貢献できることを目指す教育

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2023/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>人間科学部では、次の能力・意欲をもった人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者の選抜を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の理想と理念を理解し、心理、スポーツや健康、幼児教育や保育に関心があり、学習意欲が高い人 2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人 <p>《臨床心理学科》</p> <p>臨床心理学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学や精神保健福祉学に関心があり、学習意欲が高い人 2. 物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人 3. 人の心に寄り添い、適切に援助する態度・技術を学び、社会に貢献したいと考える人 <p>《子ども教育学科》</p> <p>子ども教育学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の健やかな成長を、支援するための知識や技能の獲得に、意欲的な人 2. 教育や保育の現場に不可欠なコミュニケーション力を、身につけている人 3. 保育に関する文化及び技能の獲得に、意欲的な人 <p>《スポーツ健康科学科》</p> <p>スポーツ健康科学科では、大学及び学部のポリシーに加え、次の能力・意欲をもった人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のからだどこころの健康に興味・関心があり、自らの健康や運動能力を高めると共に、多くの人を支えることに関心をもつ人 2. 子どもから高齢者までの人々の幅広いスポーツ活動や地域社会のヘルスプロモーションに関心があり、社会や産業に貢献したいと考えている人 3. スポーツのもつ文化的価値と意義を理解し、特定の領域、特に競技スポーツ分野において、優れた技能を獲得したいと考えている人

<p>学部等名：経済学部経済学科（夜間主コース）（平成30年より学生募集停止）</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2016/human-training_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>経済学部は、学修を通して自分の考えをつくりあげ、自ら進んで社会の持続的な発展と人びとの福利に寄与できる人材の育成を目指す。この目的を実現するため、昼間時間帯の受講を中心とする昼間主コースと夜間時間帯の受講を中心とする夜間主コースを設置し、経済学の基礎から応用・実践までを、「地域経済系列」と「国際経済系列」として系統的に学ぶカリキュラムを編成している。加えて、系列の下に、就職やその後の業務を意識して学生が選択する「地域経済トラック」「国際経済トラック」「金融トラック」「公共トラック」「経済教育トラック」という五つのトラックを置いている。これらのトラックでの学修を通して、地域の産業界や地方公共団体などで活躍する人材や、グローバルな視点を身につけて国内外で活躍する人材の養成を目指している。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/diploma-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 経済学部では、下記の事項を達成した者に対し、学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基礎的理論を理解し、それに基づいて現実の経済社会の諸事象を説明できる。 2. 地域経済や国際経済、金融・公共部門が抱える諸問題を理解し、それに取り組む能力を修得している。 3. 多様な文化と価値を知った上で、現実の問題解決能力と、公共の福祉に寄与するためのモラルや人間力を備えている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/curriculum-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 経済学部のカリキュラム・ポリシーは下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入門科目、共通科目を履修させた後、地域経済・国際経済・金融・公共・経済教育の各トラックの推奨科目の履修により、卒業後の職業を見据えた応用力・実践力を段階的に養成する。 2. ゼミナール等の少人数教育によって、議論を通じて他者との相互理解を深めるとともに、問題発見能力やコミュニケーション能力等の社会人に必要とされる知識やスキルを身につけさせる。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 経済学部は、次の意欲を持った人を受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学前に経済学を学ぶ上で必要な基礎学力を培うと同時に、地域・日本・世界の経済に関して幅広い関心を持ち、大学での勉学に積極的に取り組む人。 2. 卒業後には経済の知識や資格を生かして地域社会に貢献したい、あるいはグローバルに活躍したいと考え、その実現に必要な能力を身につけようという意欲を持つ人には、勤労者や社会人も含めた広い世代に門戸を開いている。
<p>学部等名：商学部第一部商学科（平成30年より学生募集停止）</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2016/human-training_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 商学部は、「産学一如」という建学の理想を反映して、旧来の狭い範囲での商業活動に限定せず、グローバルなビジネスと観光の一大拠点である福岡を基盤とした実践的教育を通して、企業・経済活動、地域社会、国際社会に対応できる多様な価値観と幅広い視野を持つ「快活で行動力あるビジネスリーダー」を育成することで、地域社会への貢献を目指す。</p> <p>《商学科》 商学科では、商学を始め、会計学、経営学、経済学の分野における理論的・実践的な教育を通じて、福岡の地の利と伝統を活かし、新しい時代に対応する変化力を持つ「ニュービジネスを創出できる人材」の育成を目指す。</p>

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/diploma-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 商学部は、教育課程の中から指定された単位を含め、124 単位以上を修得し、次の能力と資質を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理論と実践の両面から学び、主体的に地域社会にかかわることができる。 2. 多様な考えに触れながら、理解し自分の考えの確かさを追及することができる。 3. 収集した情報を整理し、他者にわかりやすく伝えることができる。 4. 知識、社会適応力、総合的な学修経験を獲得し、社会の発展に貢献できる。 <p>《商学科》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養と専門分野の基礎となる実践的な知識を身につけ、活用することができる。 2. 商取引に関して正しく理解できる。 3. 問題の発見、課題の設定と解決策の検討実施ができる。 4. マーケットとビジネスに精通した企業人及び起業家としてのマインドを持つことができる。 5. コミュニケーションを図りながら、自分の考え・意見を伝えることができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/curriculum-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要） 商学部は、学位授与の方針に掲げる能力や資質を育成するとともに、学生の能力を最大限に引き出し、「社会を生き抜く力」を備えた人材の養成を目指し、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「産学一如」という本学の建学の理想を体現することを目的に専門能力の修得を目指す専門科目群、社会に求められる豊かな教養と社会人力と国際化の進展に対応できる幅広い教養を教授する基礎教育科目群と外国語科目群のカリキュラムを体系的に編成している。 2. 幅広い視野と豊かな人間性を育み、社会で活躍できるための基礎的な力を身につけることを目的として、「基礎教育科目」に実践科目、教養科目を置く。 3. 各学科の「専門科目」では、学生が専門的な知識や技能を修得し、専門的なものの見方や考え方の基本を学ぶことができる。 4. 「実践力育成科目」では、課題発見・解決力などの育成を通して、学生が社会的に自立し活躍できる力を身につけることができる。 <p>《商学科》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商学を中心として、商業の本質について考察する理論的側面と、経済社会及び企業活動での応用・展開を追究する実践的側面から、多面的な視点を養うためのカリキュラムを編成している。 2. 商学・会計学・経営学・経済学など、幅広い分野の基礎から応用まで、ビジネス全般に関する総合的な教育を行っている。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/admission-policy_daigaku.pdf</p>

<p>(概要)</p> <p>商学部は、企業・経済活動、地域社会、国際社会に対応できる多様な価値観と幅広い視野を持つ「快活で行動力のあるビジネスリーダー」の育成を目指す。理論と実践の両面から学び、多様な学問・文化・言語・価値観の交流に積極的に取り組み、新しい時代に対応する「変化力」を身につけ、地域社会に主体的に貢献しようとする次のような学生を積極的に受け入れる。</p> <p>《商学科》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世の中の動きを敏感にとらえ、旺盛な好奇心を持って、ビジネスを考えようとする人 2. 「ヒト・モノ・カネ・情報」の流れに関心があり、ビジネスに関する専門的な知識・見識を修得しようとする人 3. 勉学に真摯に取り組み、努力する習慣を身につけようとする人 4. 社会に主体的に貢献したいと思っている人

学部等名：経営学部（平成30年より学生募集停止）

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表）
https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2016/human-training_daigaku.pdf

(概要)

経営学部は、学則第1条に定める九州産業大学の「産学一如」の理想のもと、経営学の専門的な学修を通じて、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った人材を輩出すべく、知性・感性・想像力の開発を重視し、21世紀のグローバル化社会・知識基盤社会の要請に対応できる人材育成に努める。

経営学部が目標とするのは、実社会で即戦力となる有能な人材としての、豊かな教養と深い専門知識を具えた堅実有為の社会的人格である。国際経営学科ではグローバル社会で活躍できる人材、すなわち、異文化理解と語学力を基盤として、地球社会全体の発展を視野に入れたビジネス・パーソンを養成する。産業経営学科では、IT革命による経営環境の激変に対応しうる独立心旺盛な経営者候補生、すなわち知識基盤社会の要請に対応した起業家マインドとビジネス・スキルを持ちながらも、つねに社会貢献を意識しているビジネス・パーソンを養成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）
https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/diploma-policy_daigaku.pdf

(概要)

経営学部は、建学の理想（産学一如）と理念のもとで、経営学の専門的な学修により、広く産業界の期待に応えられる“実践力”“熱意”“豊かな人間性”を持った心身ともに健全な国際的教養人として、21世紀のグローバル化社会・知識基盤社会の要請に対応できる人材育成を目的に定め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 経営学を基盤とした問題解決能力を持ち、マネジメントの重要性を認識している。
2. そのための要件として、①幅広い教養と経営学の専門的知識の活用、②論理的思考と判断、③経営学の技術・技能の修得による創造力・実践力の発揮、④多様な人々とのコミュニケーションと社会発展に貢献する熱意、⑤広い視野と他者の主体的な協力、の5つを備えている。

《国際経営学科》

国際経営学科では、学部の要件に加え、グローバル化社会で活躍できる人材として、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

1. 異文化を理解する能力を備えている。
2. 専門的な職務遂行に有用な語学力を備えている。
3. 地球社会全体の発展を視野に入れたビジネス・パーソンとして行動できる。

<p>《産業経営学科》</p> <p>産業経営学科では、学部の要件に加え、知識基盤社会で活躍できる人材として、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 独立心旺盛な経営者候補生として IT 革命による環境激変への対応能力を備えている。 2. 知識基盤社会の要請に対応した起業家マインドとビジネス・スキルを備えている。 3. 社会貢献を意識したビジネス・パーソンとして行動できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/curriculum-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>経営学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を学生に修得させるため、次の教育課程編成・実施方針をとる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い教養及び総合的な判断力を培うとともに豊かな人間性を持った人材を育成するために KSU 基盤教育の課程を置く。 2. 経営学の知識・理論・技術を学びグローバル化社会・知識基盤社会で実践できる人材を育成するために専門教育課程を編成する。 3. 専門教育課程は、①全学年・学期開講のフル・ゼミナール体制と、②学科独自の特別コースからなるマルチ・ゼミナールのシステムを中核として編成する。 4. KSU プロジェクト型教育は、経営学部型 PBL（学生創発型 PBL）の手法により実施する。 5. ゼミナールや PBL は、学生に能動的な学修を促すアクティブ・ラーニングを基本とする。 <p>《国際経営学科》</p> <p>国際経営学科では、学部の方針に次の要件を加える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな視野と異文化理解能力及び語学力を修得したビジネス・パーソンを育成するための特別コースとしてコース演習を中核とする国際ビジネスコースを置く。 2. 会計の資格を活かしてグローバル社会に貢献する人材育成の特別コースとして会計コースを置く。 <p>《産業経営学科》</p> <p>産業経営学科では、学部の方針に次の要件を加える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商品開発や地域貢献等の実践活動を通じて起業家マインドとビジネス・スキルを修得するための特別コースとして、コース演習を中核とする事業開発コースを置く。 2. 会計の資格を活かして地域基盤社会に貢献する人材育成の特別コースとして会計コースを置く。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>経営学部は、建学の理想（産学一如）と理念のもとで、経営学の専門的な学修により、広く産業界と地域の要請に応えられる有能な人材の育成を目的とした学位の授与方針及び教育課程編成・実施の方針に相応しい学生として、次の能力・意欲を持った人材から、基礎的な知識や適性を多面的・総合的に評価し、入学者選抜を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の理想（産学一如）と理念を理解し、学修意欲が高い人。とりわけ、ビジネスを通じた社会貢献を将来の目標とし、その実現のために経営学を学ぶ明確な意志を持つ人 2. ①基礎的・基本的知識・技能、②課題解決のための思考・判断・表現力、③主体的学修に取り組む態度を備え、物事を多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる人 3. 語学・情報・簿記など特定分野で卓越した能力を持っている人

<p>《国際経営学科》</p> <p>国際経営学科では、学部の要件に加え、次の意欲を持った入学者を求める。</p> <p>1. グローバル化社会で活躍するための異文化理解能力と、専門的な職務遂行に必要な語学力を高めたい人</p> <p>《産業経営学科》</p> <p>産業経営学科では、学部の要件に加え、次の意欲を持った入学者を求める。</p> <p>1. 知識基盤社会の要請に対応した起業家マインドとビジネス・スキルを高めたい人</p>

<p>学部等名：国際文化学部臨床心理学科（平成30年より学生募集停止）</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/human-training_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>教育の目標は、急速にグローバル化が進展する21世紀の社会で活躍できる人材の育成である。少人数制クラスを基本として、国際文化学科・日本文化学科・臨床心理学科の共通科目、充実した外国語科目、創造力・指導力・コミュニケーション能力を養成する多彩なゼミナール系科目などを設けている。外国文化・日本文化・人間心理を中心として教養を身につけたうえで、専門的な知識を深く修得することを目指している。</p> <p>《臨床心理学科》</p> <p>臨床心理学科には、「臨床心理」および「精神保健福祉」の2コースがあり、多くの体験型・参加型授業を通じてコミュニケーション力の向上を図り、心の問題に対し専門的援助ができる人材を育成している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/diploma-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>国際文化学部では、次の能力を備え、学則で定められた124単位を修得した学生に学士の学位を授与する。</p> <p>1. 外国文化・日本文化・人間心理を中心とした幅広い教養を身につけ、さらにそれを専門的に探究する意欲を持っている。</p> <p>2. グローバル社会で活躍できるコミュニケーション力と国際感覚を有している。</p> <p>3. 文化に関する自分の知識や考えを論理的に表現できる。</p> <p>4. 人の心や異なる考え方を理解し、尊重することができる。</p> <p>《臨床心理学科》</p> <p>1. 他者の心理を深く理解できるとともに、自己啓発を継続して行うことができる。</p> <p>2. 優れたコミュニケーション能力を持って、心の問題に対し深い理解と援助ができる。</p> <p>3. 臨床心理学や精神保健福祉学の知識を実践に適用できる能力を有している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表）</p> <p>https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/curriculum-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>国際文化学部は、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 学部共通の「基幹科目」により、外国文化・日本文化・人間心理への教養を涵養する。</p> <p>2. 「基礎文化学科目」で、文化並びに人間心理を探究する意欲を高め、専門教育への橋渡しをする。</p> <p>3. 「ゼミナール」「フィールドワーク」「心理学演習諸科目」をとおして、コミュニケーション力と表現力を培う。</p> <p>4. 「海外研修」などにより、国際感覚と語学力を養う。</p>

<p>《臨床心理学科》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学科では、2つのコースを設けて専門教育を行う。 2. 「コース科目」の学科共通科目において、臨床心理学及び精神保健福祉学の理論的学習を行うと同時に、人々を取り巻く多彩な環境に対する適応について深く理解する。 3. 3年次より「臨床心理」「精神保健福祉」の2コースに分かれ、体験型の実習・演習を中心に、専門的知識と技能を学び、心の専門的援助能力を修得する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにおいて公表） https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/2017/admission-policy_daigaku.pdf</p>
<p>（概要）</p> <p>国際文化学部は、次のような資質や意欲を持つ学生を積極的に受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際文化・日本文化・人間心理に強い関心を持ち、それを発展的に学修する意欲を持つ人 2. 外国語を学び、自在に操って世界で活躍したいと考えている人 3. 文化を探究し、日本と日本人の本質に迫りたいと考えている人 4. 現代世界が抱えるストレス社会やこころの様々な問題に取り組み、それらの問題解決に貢献したいと考えている人 <p>《臨床心理学科》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人と関わることへの関心が高く、様々な活動に積極的に参加する意欲のある人 2. 自己の感情状態に気づき、適切な言葉として表現することができる人 3. 他者の心理状態への関心が高く、豊かな人間関係を築くことができる人 4. 社会問題への関心が高く、その背景の理解や解決に取り組む意欲と行動力のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：公表方法：大学のホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/publication/pdf/nakamura.pdf</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2人	－					2人
経済学部	－	14人	8人	6人	2人	人	30人
商学部	－	20人	13人	2人	人	人	35人
地域共創学部		15人	6人	6人	1人	人	28人
理工学部		30人	10人	6人	2人	5人	53人
生命科学部		12人	5人	1人	人	3人	21人
建築都市工学部		15人	10人	1人	人	8人	34人
芸術学部		23人	10人	6人	1人	9人	49人
国際文化学部		14人	1人	4人	人	人	19人
人間科学部		20人	9人	8人	1人	6人	44人
教養部		6人	8人	27人	2人	人	43人
その他		人	1人	人	3人	1人	5人
計		169人	81人	67人	12人	32人	363人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		578人				578人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://ras2.kyusan-u.ac.jp/kvshp/KgApp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、建学の理想「産学一如」のもと、全学的なFD委員会を基軸として、組織的にFD研修会、授業アンケートの実施、公開授業や授業研究会など、さまざまな取り組みを行っている。その成果を組織として活用するとともに、知見を共有し、教育改善を行うために、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容・授業方法の改善 2. 大学全体の組織としての教育力向上 <p>の2点の視点から全学的なFD活動に取り組んでいる。</p> <p>上述した授業改善のために行われるさまざまな試みはもとより、教育重視の大学を目指す本学としては、学部・大学院における教育改善のための、組織としての構成員の相互連携や協働体制の確立、教育理念の共通理解・目的の共有が不可欠である。教育における教員個人の創意工夫・改善努力と、組織としての教育力向上への取り組みとは、まさに車の両輪の如く、共にFDの充実・発展に資している。</p> <p>以上のように、本学は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の更なる教育スキルの向上 2. 学部・大学院における教員相互の協働促進 <p>を含め大学の組織としてのFD推進を不断に実践している。</p> <p>「公開授業」は、教員同士が互いの授業を参観しあうことにより、学生の視点に立った授業内容・方法の工夫、改善に役立てるとともに、教員の資質向上に資することを目的としている。公開授業を参観した教員は、「参観者アンケート結果」や「学生による授業アンケート結果」等をもとに、全教員を対象として実施する「授業研究会」において、成果と今後の課題などについて意見交換を実施している。</p> <p>FD活動に関しては、本学ホームページにおいて広く社会に公表している。 URL=https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/fd/</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	400人	427人	106.8%	1,600人	1,588人	99.3%	若干名人	0人
商学部	500人	532人	106.4%	2,000人	2,075人	103.8%	若干名人	2人
地域共創学部	280人	291人	103.9%	1,120人	1,112人	99.3%	若干名人	2人
商学部第一部	—人	—人	—%	—人	4人	—%	—人	—人
経営学部	—人	—人	—%	—人	4人	—%	—人	—人
理工学部	370人	324人	87.6%	1,480人	1,418人	95.8%	若干名人	7人
生命科学部	110人	119人	108.2%	440人	402人	91.4%	若干名人	0人
建築都市工学部	200人	198人	99.0%	800人	799人	99.9%	若干名人	0人
芸術学部	300人	312人	104.0%	1,200人	1,271人	105.9%	若干名人	16人
国際文化学部	140人	144人	102.9%	560人	566人	101.1%	若干名人	6人
人間科学部	230人	244人	106.1%	920人	955人	103.8%	若干名人	3人
合計	2,530人	2,591人	102.4%	10,120人	10,194人	100.7%	若干名人	36人
(備考)								
・学生募集を停止しているが、在学生のいる学部等： （平成30年度より学生募集停止） 経済学部経済学科（夜間主コース）、商学部第一部商学科、経営学部、 国際文化学部臨床心理学科								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	349人 (100%)	1人 (0.3%)	303人 (86.8%)	45人 (12.9%)
商学部	437人 (100%)	5人 (1.1%)	388人 (88.8%)	44人 (10.1%)
地域共創学部	258人 (100%)	1人 (0.4%)	228人 (88.4%)	29人 (11.2%)
商学部第一部	11人 (100%)	0人 (0.0%)	9人 (81.8%)	2人 (18.2%)
経営学部	6人 (100%)	0人 (0.0%)	3人 (50.0%)	3人 (50.0%)
理工学部	313人 (100%)	12人 (3.8%)	287人 (91.7%)	14人 (4.5%)
生命科学部	81人 (100%)	7人 (8.6%)	71人 (87.7%)	3人 (3.7%)
建築都市工学部	170人 (100%)	6人 (3.5%)	158人 (92.9%)	6人 (3.5%)

工学部	4人 (100%)	0人 (0.0%)	3人 (75.0%)	1人 (25.0%)
情報科学部	1人 (100%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	1人 (100.0%)
芸術学部	277人 (100%)	14人 (5.1%)	204人 (73.6%)	59人 (21.3%)
国際文化学部	121人 (100%)	3人 (2.5%)	100人 (82.6%)	18人 (14.9%)
人間科学部	210人 (100%)	8人 (3.8%)	183人 (87.1%)	19人 (9.0%)
合計	2,238人 (100%)	57人 (2.5%)	1,937人 (86.5%)	244人 (10.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 九州産業大学大学院、九州工業大学大学院、佐賀大学大学院、長崎大学大学院、富山大学大学院 (株)福岡銀行、九州電力(株)、(株)九電工、(株)竹中工務店、九州旅客鉄道(株)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
経済学部	397人 (100%)	307人 (77.3%)	41人 (10.3%)	48人 (12.1%)	0人 (0.0%)
商学部	502人 (100%)	391人 (77.9%)	57人 (11.4%)	54人 (10.8%)	0人 (0.0%)
地域共創学部	278人 (100%)	238人 (85.6%)	18人 (6.5%)	22人 (7.9%)	0人 (0.0%)
理工学部	374人 (100%)	264人 (70.6%)	57人 (15.2%)	54人 (14.4%)	0人 (0.0%)
生命科学部	99人 (100%)	80人 (80.8%)	5人 (5.1%)	14人 (14.1%)	0人 (0.0%)
建築都市工学 部	205人 (100%)	161人 (78.5%)	23人 (11.2%)	21人 (10.2%)	0人 (0.0%)
芸術学部	319人 (100%)	254人 (79.6%)	31人 (9.7%)	34人 (10.7%)	0人 (0.0%)
国際文化学部	143人 (100%)	111人 (77.6%)	19人 (13.3%)	13人 (9.1%)	0人 (0.0%)
人間科学部	237人 (100%)	202人 (85.2%)	13人 (5.5%)	22人 (9.3%)	0人 (0.0%)
合計	2,554人 (100%)	2,008人 (78.6%)	264人 (10.3%)	282人 (11.0%)	0人 (0.0%)
<p>(備考)</p> <p>平成 31 (令和元) 年度に入学した学生 (2,554 人) のうち、修業年限 (4 年) で卒業した割合は 78.6% である。一方で、中途退学者は 11.0% となっている。</p> <p>中途退学については、就学意欲の低下、学力不足、経済的理由等が多くの割合を占めている。</p> <p>※転学部した学生 (2 名) については、転学部後の学部において、数値を計上している。 経済学部から芸術学部 1 名、芸術学部から理工学部 1 名</p>					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 【再掲】</p> <p>授業計画書 (シラバス) の作成過程及び時期については、以下のとおりである。</p> <p>①教務委員会において作成依頼を行う (12 月上旬)。作成依頼文書には、記載方法、留意点等を記載したマニュアルを提示し、学生主体の具体的な内容を記載するよう求めている。</p> <p>記載項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義概要 ・講義計画 (各回ごとのテーマ及び学習内容) ・到達目標 ・準備学習の内容 (事前・事後学習) ・評価基準 ・評価方法 ・受講上の注意 ・受講制限 ・関連する科目 ・教科書 ・指定図書 ・参考文献他 ・実務家教員該当の有無 ・コンピテンシー ・ルーブリック <p>②大学評価室による第三者チェックを実施し (1 月～3 月)、内容の確認を行う。確認の結果、必要に応じて修正を行う。</p> <p>③前年度の 3 月 (次年度開始前のガイダンス時) に公表する。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 【再掲】

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業計画書(シラバス)の作成時に、授業科目担当教員に対してマニュアルを配布し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合性に留意し、この授業科目等を履修・修得することによって、「どのような知識やスキルを身に付けることができるのか」といった視点に基づき「到達目標」の記載を求めている。到達目標には、「〇〇ができる」等といった目標を具体的かつ明確に記載することを求めている。併せて、その評価についても、どのような方法で評価するのか、試験、レポート等を併用する場合の評価割合はどのようになっているか、上位の評価を得るための基準等についても、記載を求めている。

これらの項目は、大学評価室の第三者チェックを経て、授業開始前に学生に公表され、自らが到達すべき目標を把握した上で、授業科目を選択することができる。

授業科目担当教員は、学生に明示したこれらの項目に基づき、厳格かつ適正に単位授与の判定を行っている。

学生は、成績発表(8月、3月)を以て自己の成績を確認することができるが、その内容に疑義がある場合は、授業科目担当教員に照会することができる。照会を受けた授業科目担当教員は、当該評価となった理由等の説明は行うが、これは、成績評価の厳正さを担保するための措置であり、救済の機会を与えるものではない。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、GPAを導入している。GPAについては、学則及び各学部の授業科目履修規程において算出方法等を規定し、明示している。

GPAの算出方法については、全学部共通で成績評価に対するGPを設定し、下記の方法によって算出している。

- ・成績評価に対するGP

秀=4、優=3、良=2、可=1、不可=0

- ・算出方法

$$GPA = \left[\frac{\text{科目の単位数} \times (\text{その科目で得たGP})}{\text{履修登録した単位数}} \right] \text{の総和} \div \text{履修登録した単位数の総和}$$

※GPAの計算には、卒業要件単位に参入することができない科目及び編入学、資格検定等により認定された科目は含まない。

上記の方法により算出したGPAについては、学生への成績発表を以て、通知している。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、全学的な学位の授与方針(ディプロマ・ポリシー)は学則に定めており、学部、学科の学位の授与方針は、各学部の授業科目履修規程において規定している。

各授業科目のシラバスを作成する際は、ディプロマ・ポリシーとの整合性に留意して作成している。また、「外部評価委員会」を設け、学生の学修成果を確認し、ディプロマ・ポリシーとの整合性を検証するなど、ディプロマ・ポリシーが適切に実施されていることを確認しながら、運用している。

なお、卒業必要単位は全学部124単位である。

また、卒業判定については、学則に基づき、各学部教授会において卒業要件に対する学生の単位修得状況を確認の上、審議を行い学長に意見を述べる。学長は、意見を参考に卒業要件を満たした学生の卒業を認め、学位を授与するという手順で行っている。

2020 年度以降入学生適用				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	44 単位
商学部	経営・流通学科	124 単位	有・無	44 単位
地域共創学部	観光学科	124 単位	有・無	44 単位
	地域づくり学科 (昼夜開講制)	124 単位	有・無	44 単位
理工学部	情報科学科	124 単位	有・無	44 単位
	機械工学科	124 単位	有・無	44 単位
	電気工学科	124 単位	有・無	44 単位
生命科学部	生命科学科	124 単位	有・無	44 単位
建築都市工学部	建築学科	124 単位	有・無	44 単位
	住居・インテリア 学科	124 単位	有・無	44 単位
	都市デザイン工学 科	124 単位	有・無	44 単位
芸術学部	芸術表現学科	124 単位	有・無	44 単位
	写真・映像メデ ィア学科	124 単位	有・無	44 単位
	ビジュアルデザ ィン学科	124 単位	有・無	44 単位
	生活環境デザ ィン学科	124 単位	有・無	44 単位
	ソーシャルデザ ィン学科	124 単位	有・無	44 単位
国際文化学部	国際文化学科	124 単位	有・無	44 単位
	日本文化学科	124 単位	有・無	44 単位
人間科学部	臨床心理学科	124 単位	有・無	46 単位
	子ども教育学科	124 単位	有・無	46 単位
	スポーツ健康科学 科	124 単位	有・無	46 単位
2019 年度以前入学生適用				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	48 単位
	経済学科 (夜間主 コース)	124 単位	有・無	48 単位
商学部	経営・流通学科	124 単位	有・無	48 単位
地域共創学部	観光学科	124 単位	有・無	48 単位
	地域づくり学科 (昼夜開講制)	124 単位	有・無	48 単位
商学部第一部	商学科	124 単位	有・無	(1 年次) 44 単位 (2 年次) 48 単位 (3・4 年次) 50 単位

経営学部	国際経営学科	124 単位	有・無	48 単位
	産業経営学科	124 単位	有・無	48 単位
理工学部	情報科学科	124 単位	有・無	48 単位
	機械工学科	124 単位	有・無	48 単位
	電気工学科	124 単位	有・無	48 単位
生命科学部	生命科学科	124 単位	有・無	48 単位
建築都市工学部	建築学科	124 単位	有・無	48 単位
	住居・インテリア学科	124 単位	有・無	48 単位
	都市デザイン工学科	124 単位	有・無	48 単位
芸術学部	芸術表現学科	124 単位	有・無	48 単位
	写真・映像メディア学科	124 単位	有・無	48 単位
	ビジュアルデザイン学科	124 単位	有・無	48 単位
	生活環境デザイン学科	124 単位	有・無	48 単位
	ソーシャルデザイン学科	124 単位	有・無	48 単位
国際文化学部	国際文化学科	124 単位	有・無	48 単位
	日本文化学科	124 単位	有・無	48 単位
	臨床心理学科	124 単位	有・無	48 単位
人間科学部	臨床心理学科	124 単位	有・無	46 単位
	子ども教育学科	124 単位	有・無	46 単位
	スポーツ健康科学科	124 単位	有・無	46 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：授業評価アンケートの結果を大学ホームページにおいて公表している。 https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/efforts/fd/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにおいて公表している。

学内マップ：<https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/summary/campus.html>

主な教育研究施設：<https://www.kyusan-u.ac.jp/campus/facility/>

運動施設：<http://www.hssc.kyusan-u.ac.jp/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
《2023 年度の入学者適用》					
経済学部	経済学科	720,000 円	200,000 円	170,000 円	教育充実費
商学部 (グローバル・フットビジネス・プログラムを含む)	経営・流通学科	720,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
地域共創学部 (グローバル・フットビジネス・プログラムを含む)	観光学科	720,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
	地域づくり学科				〃
国際文化学部	国際文化学科 (グローバル・フットビジネス・プログラムを含む)	720,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
	日本文化学科				〃
人間科学部	臨床心理学科	700,000 円	200,000 円	190,000 円	〃
	子ども教育学科	770,000 円		270,000 円	〃
	スポーツ健康科学科	820,000 円		360,000 円	〃
理工学部	情報科学科	950,000 円	200,000 円	420,000 円	〃
	機械工学科				〃
	電気工学科				〃
生命科学部	生命科学科	950,000 円	200,000 円	440,000 円	〃
	生命科学科 (グローバル・フットビジネス・プログラム)	812,000 円	200,000 円	278,000 円	〃
建築都市工学部	建築学科	950,000 円	200,000 円	400,000 円	〃
	住居・インテリア学科				〃
	都市デザイン工学科				〃
芸術学部	芸術表現学科	970,000 円	200,000 円	450,000 円	〃
	写真・映像メディア学科				〃
	ビジュアルデザイン学科				〃
	生活環境デザイン学科				〃
	ソーシャルデザイン学科				〃
	ソーシャルデザイン学科 (グローバル・フットビジネス・プログラム)	820,000 円	200,000 円	282,000 円	〃

《2022 年度の入学者適用》					
経済学部	経済学科	720,000 円	200,000 円	170,000 円	教育充実費
商学部	経営・流通学科	720,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
地域共創学部	観光学科	720,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
	地域づくり学科				〃
国際文化学部	国際文化学科	720,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
	日本文化学科				〃

人間科学部	臨床心理学科	700,000 円	200,000 円	190,000 円	〃
	子ども教育学科	770,000 円		270,000 円	〃
	スポーツ健康科学科	820,000 円		360,000 円	〃
理工学部	情報科学科	950,000 円	200,000 円	420,000 円	〃
	機械工学科				〃
	電気工学科				〃
生命科学部	生命科学科	950,000 円	200,000 円	440,000 円	〃
建築都市工学部	建築学科	950,000 円	200,000 円	400,000 円	〃
	住居・インテリア学科				〃
	都市デザイン工学科				〃
芸術学部	芸術表現学科	970,000 円	200,000 円	450,000 円	〃
	写真・映像メディア学科				〃
	ビジュアルデザイン学科				〃
	生活環境デザイン学科				〃
	ソーシャルデザイン学科				〃
《2021 年度の入学者適用》					
経済学部	経済学科	690,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
商学部	経営・流通学科	690,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
地域共創学部	観光学科	690,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
	地域づくり学科				
	地域づくり学科 (夜間特別枠)	340,000 円	60,000 円	80,000 円	〃
国際文化学部	国際文化学科	690,000 円	200,000 円	170,000 円	〃
	日本文化学科				
人間科学部	臨床心理学科	680,000 円	200,000 円	190,000 円	〃
	子ども教育学科	740,000 円		270,000 円	〃
	スポーツ健康科学科	770,000 円		360,000 円	〃
理工学部	情報科学科	890,000 円	200,000 円	420,000 円	〃
	機械工学科				
	電気工学科				
生命科学部	生命科学科	890,000 円	200,000 円	440,000 円	〃
建築都市工学部	建築学科	890,000 円	200,000 円	400,000 円	〃
	住居・インテリア学科				〃
	都市デザイン工学科				〃
芸術学部	芸術表現学科	950,000 円	200,000 円	450,000 円	〃
	写真・映像メディア学科				
	ビジュアルデザイン学科				
	生活環境デザイン学科				
	ソーシャルデザイン学科				

《2020年度以前の入学者適用》

経済学部	経済学科	650,000円	200,000円	170,000円	〃
商学部	経営・流通学科	650,000円	200,000円	170,000円	〃
地域共創学部	観光学科	650,000円	200,000円	170,000円	〃
	地域づくり学科				
	地域づくり学科 (夜間特別枠)	300,000円	60,000円	80,000円	〃
国際文化学部	国際文化学科	650,000円	200,000円	170,000円	〃
	日本文化学科				
人間科学部	臨床心理学科	650,000円	200,000円	190,000円	〃
	子ども教育学科	700,000円		270,000円	〃
	スポーツ健康科学科	720,000円		360,000円	〃
理工学部	情報科学科	830,000円	200,000円	420,000円	〃
	機械工学科				
	電気工学科				
生命科学部	生命科学科	830,000円	200,000円	440,000円	〃
建築都市工学部	建築学科	830,000円	200,000円	400,000円	〃
	住居・インテリア学科				〃
	都市デザイン工学科				〃
芸術学部	芸術表現学科	920,000円	200,000円	450,000円	〃
	写真・映像メディア学科				
	ビジュアルデザイン学科				
	生活環境デザイン学科				
	ソーシャルデザイン学科				

《2017年度の入学者適用》

経済学部	経済学科(昼間主)	650,000円	200,000円	170,000円	〃
	経済学科(夜間主)	300,000円	60,000円	80,000円	〃
商学部第一部	商学科	650,000円	200,000円	170,000円	〃
経営学部	国際経営学科	650,000円	200,000円	170,000円	〃
	産業経営学科				
国際文化学部	臨床心理学科	650,000円	200,000円	190,000円	〃
理工学部	情報科学科	830,000円	200,000円	420,000円	〃
	機械工学科				
芸術学部	生活環境デザイン学科	920,000円	200,000円	450,000円	〃

《2016年以前の入学者適用》

経済学部	経済学科(昼間主)	603,000円	230,000円	140,000円	〃
国際文化学部	日本文化学科	603,000円	230,000円	140,000円	〃
芸術学部	ビジュアルデザイン学科	864,000円	270,000円	392,000円	〃

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では、新入生に対して入学後二週間以内にクラス担任が二者面談を行い、入学後の不安を解消するとともに、将来の目的等を確認し、大学生生活の動機づけを行っている。また、2年次生以上の学生も、ゼミ担当者等がクラス担任となっており、修学相談を受付けている。</p> <p>授業に関しては、非常勤講師を含む、全授業科目担当教員がオフィスアワーを設定している。オフィスアワーの時間等については、本学ホームページで公表しており、学生は時間を確認して、相談に行くことができる。</p> <p>単位修得状況が思わしくない学生に対しては、必要に応じて学生本人、保護者、教員による三者面談を実施しており、成績不良の要因を確認するとともに、以降の修学計画を話し合う場を設けている。</p> <p>その他、学内に「基礎教育センター」等の部所を設置し、学生が不明な点を相談する場を提供している。また、複数の自習室を設け、学内で自学自習が可能な環境を整えている。</p> <p>また、障害のある学生に対しては、授業科目担当教員に必要な配慮内容を周知し、適切に授業を受講することができるよう、教育的措置を講じている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では、就職希望の全ての学生が就職できるよう、入学から卒業まで、各学年のその時々に応じた様々な支援行事等を開催している。</p> <p>3年次生には、年間を通じ3回の「就職ガイダンス」を開催し、自己分析の方法や業界・企業研究、エントリーシート・履歴書の書き方について解説するほか、「面接・グループディスカッション対策講座」、「業界説明会」、「学内企業説明会」等を実施している。</p> <p>また、個別面談に重点を置き、3年次の6月から全学生との個別面談を実施している。</p> <p>面談の際は個人情報やプライバシーの保護に配慮した仕切りパネルのある相談窓口（15ブース）において、学部毎の専任スタッフによる懇切丁寧な面談を徹底している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【定期健康診断と医事カウンセリング】</p> <p>学校保健安全法に基づき、学年始めに定期健康診断を実施し、学生の健康状態の把握、病気の早期発見に努めている。また、保健室では、医師免許を有する常勤の学校医が週5日、学生の健康相談に応じている。</p> <p>【心の相談に応じる学生相談室】</p> <p>学生相談室では、週5日間、臨床心理士・公認心理師の資格を有する常勤カウンセラー3人と非常勤カウンセラー1人に加えて、初回の面接を担当するインターカー1人の毎日計5人体制で、さまざまな悩みを抱える学生、精神的な病気や障害のある学生に対するカウンセリングを行っている。また、学習面の悩みについて対応するために、基礎教育センター付で同資格を有する常勤カウンセラーを1人配置している。</p> <p>例年400人を超える学生が、延べ約4,500回利用している。</p> <p>【障がいのある学生に対する修学支援】</p> <p>学生部長、学校医、各学部等の委員で構成する「障がいのある学生の支援に関する委員会」を設置し、組織的に取り組んでいる。委員会において、本学では、障がいのある学生の支援に関するガイドラインを平成26年7月に制定。学生に対する適正な教育的措置をとることを目的に、配慮を要する学生の認定や必要な配慮等の措置などを協議している。</p> <p>配慮を要する学生の認定は、学生本人の修学時支援の申し込み等に応じて、学校医・カウンセラー等との面談を経て決定する。その情報は、当該学生の同意を得て授業科目担当教員などが共有し、適切な修学支援を行っている。</p>

なお、聴覚に障がいのある学生に対しては、学生ノートテイカーが、当該学生が出席する授業に帯同して要約筆記を行い、授業をより理解できるように支援する等のノートテイクボランティア活動により、修学支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページにおいて公表している。また、動画も作成し、同様にホームページで公開している。

【冊子】

https://www.kyusan-u.ac.jp/guide/public/plan_and_results/pdf/2022/2022_jigyoku.pdf

【動画】

https://www.kyusan-u.ac.jp/other/movie/year_2022.html

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F140310110687
学校名	九州産業大学
設置者名	学校法人 中村産業学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		1,257人	1,260人	1,311人
内 訳	第Ⅰ区分	740人	750人	
	第Ⅱ区分	335人	343人	
	第Ⅲ区分	182人	167人	
家計急変による支援対象者（年間）				17人
合計（年間）				1,328人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	15人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	49人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期		後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	
年間計	
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
GPA等が下位4分の1	172人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。